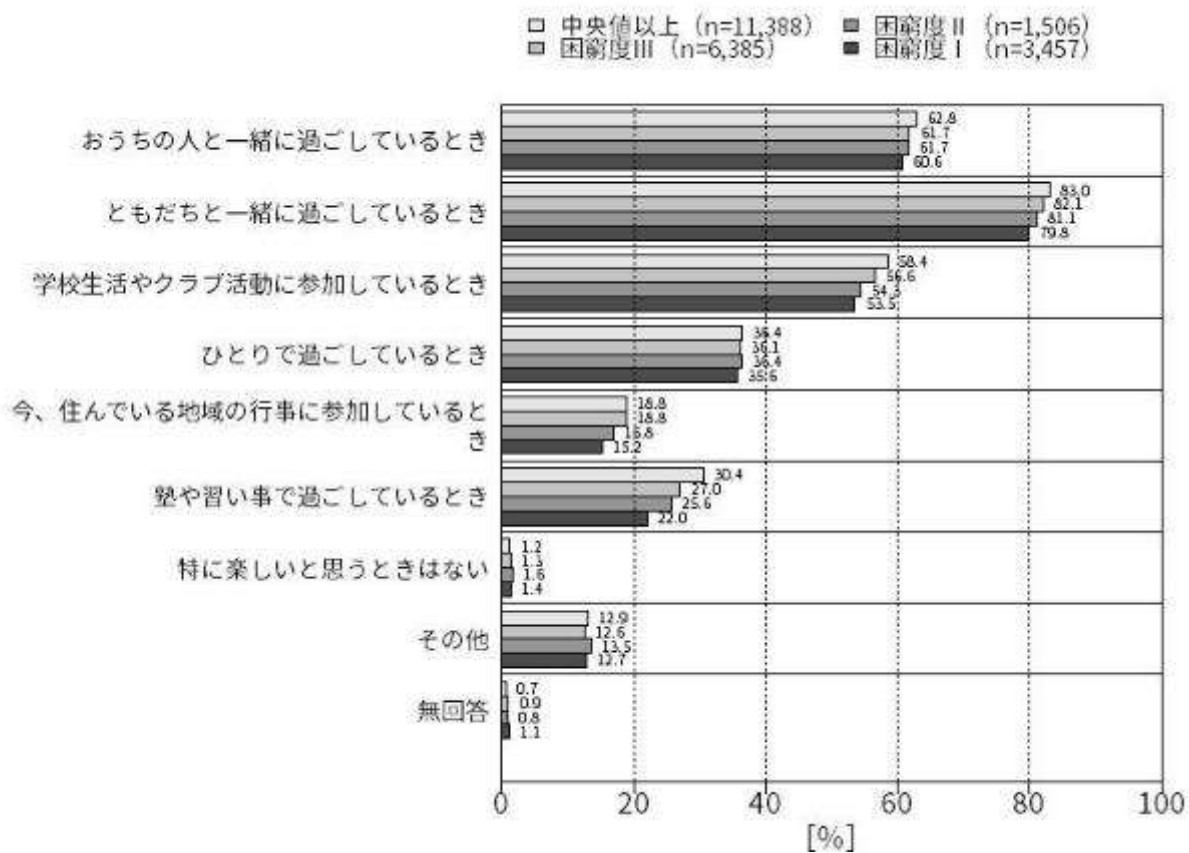


困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと（子ども票 問11）

<大阪市 24 区>



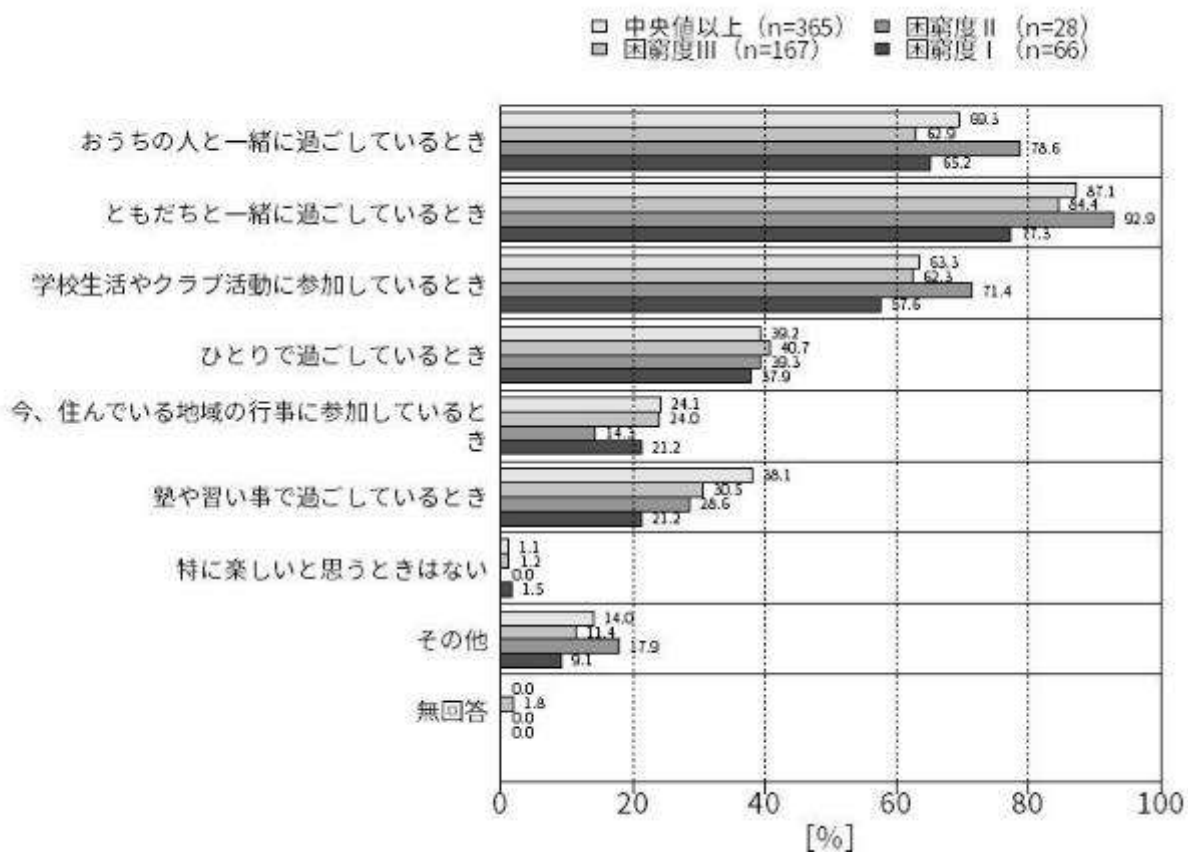
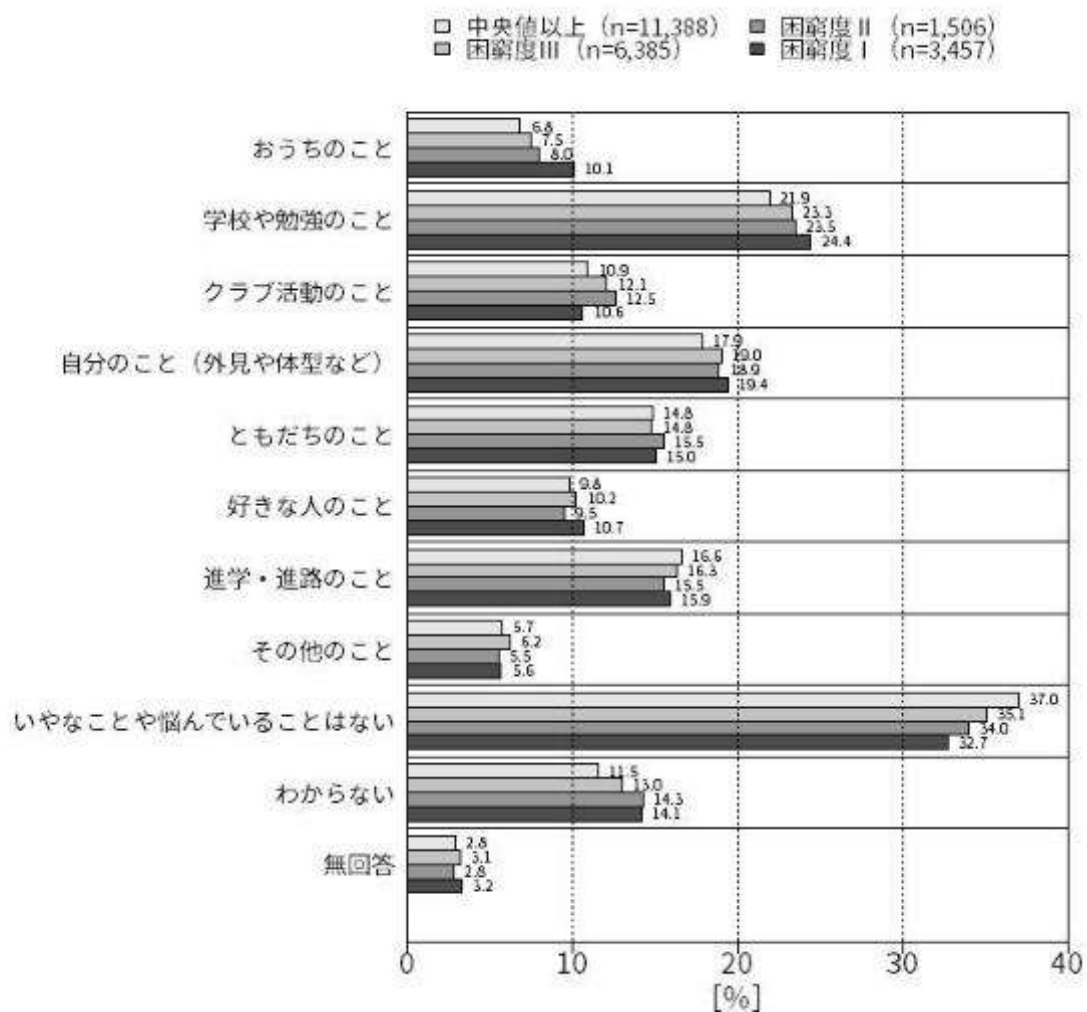


図 287. 困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと

困窮度別に子どもが毎日の生活で楽しいことを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「特に楽しいと思うときはない」1.5%（中央値以上群に対して、1.4倍）が高かった。

困窮度別に見た、悩んでいること（子ども票 問21）

<大阪市 24 区>



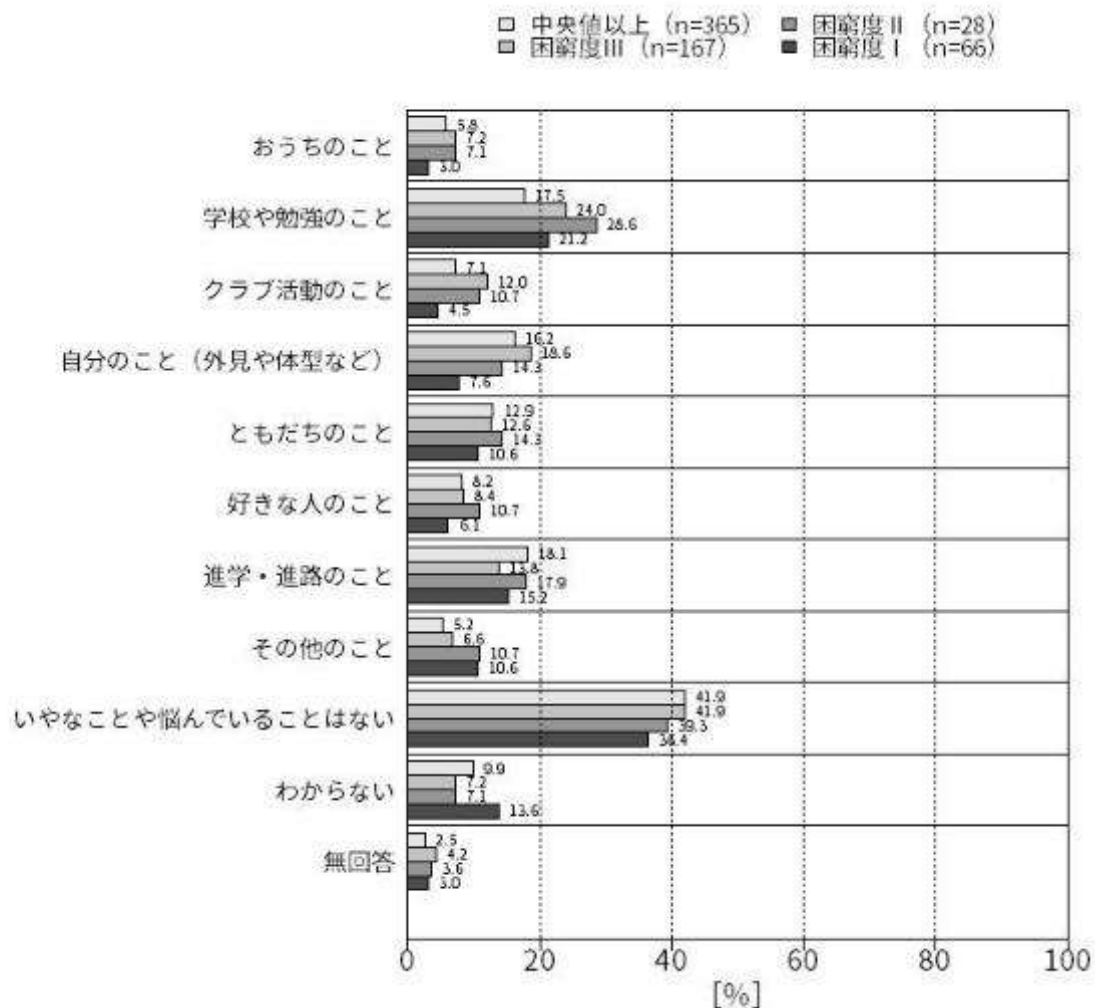
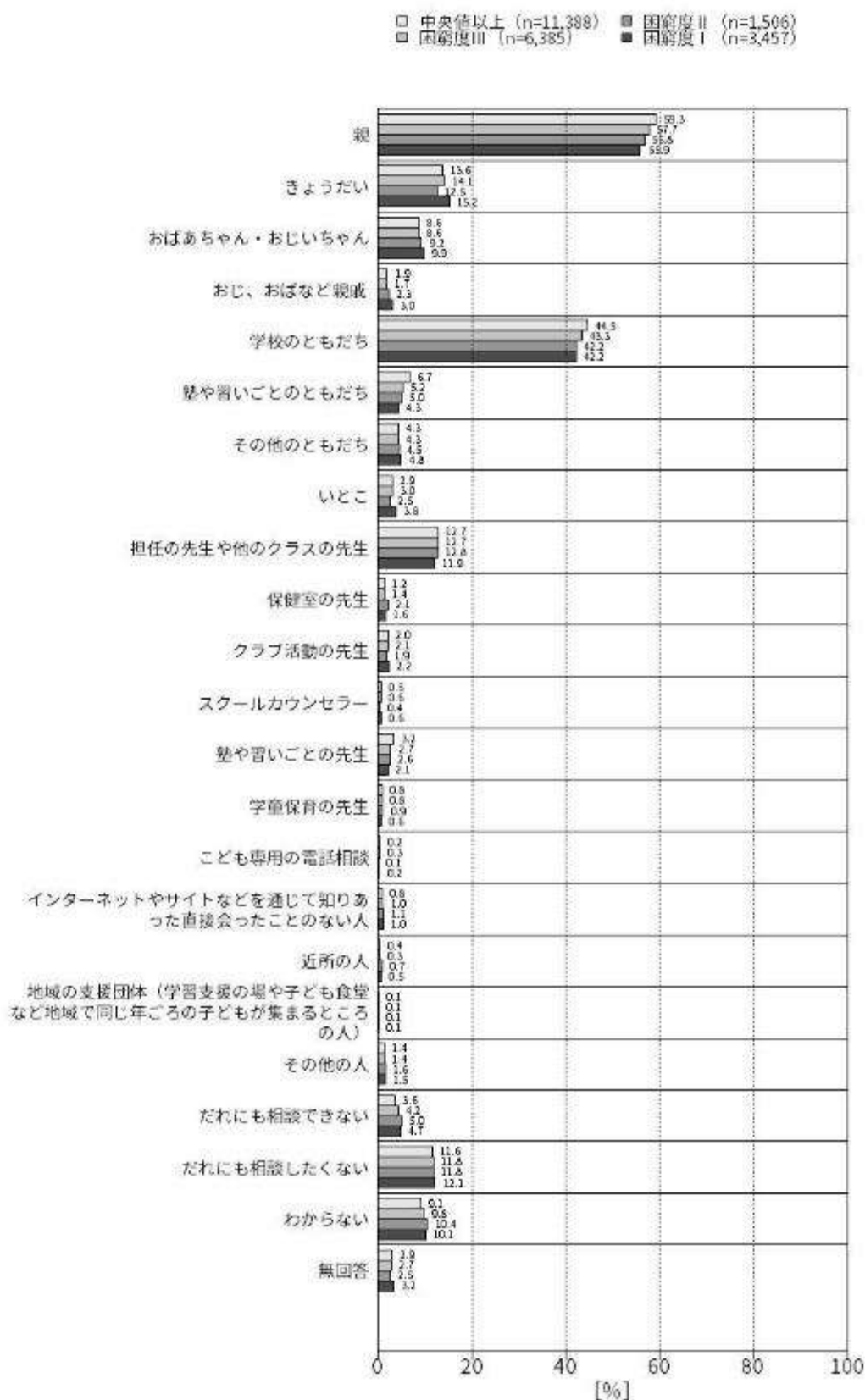


図 288. 困窮度別に見た、悩んでいること

困窮度別に子どもが悩んでいることを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目すると、困窮度Ⅰ群では、「その他のこと」10.6%（中央値以上群に対して、2.0倍）、「わからない」13.6%（1.4倍）が高く、中央値以上群では「自分のこと（外見や体型など）」16.2%（困窮度Ⅰ群に対して、2.1倍）、「おうちのこと」5.8%（1.9倍）、「クラブ活動のこと」7.1%（1.6倍）が高かった。

困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手（子ども票 問 22）

<大阪市 24 区>



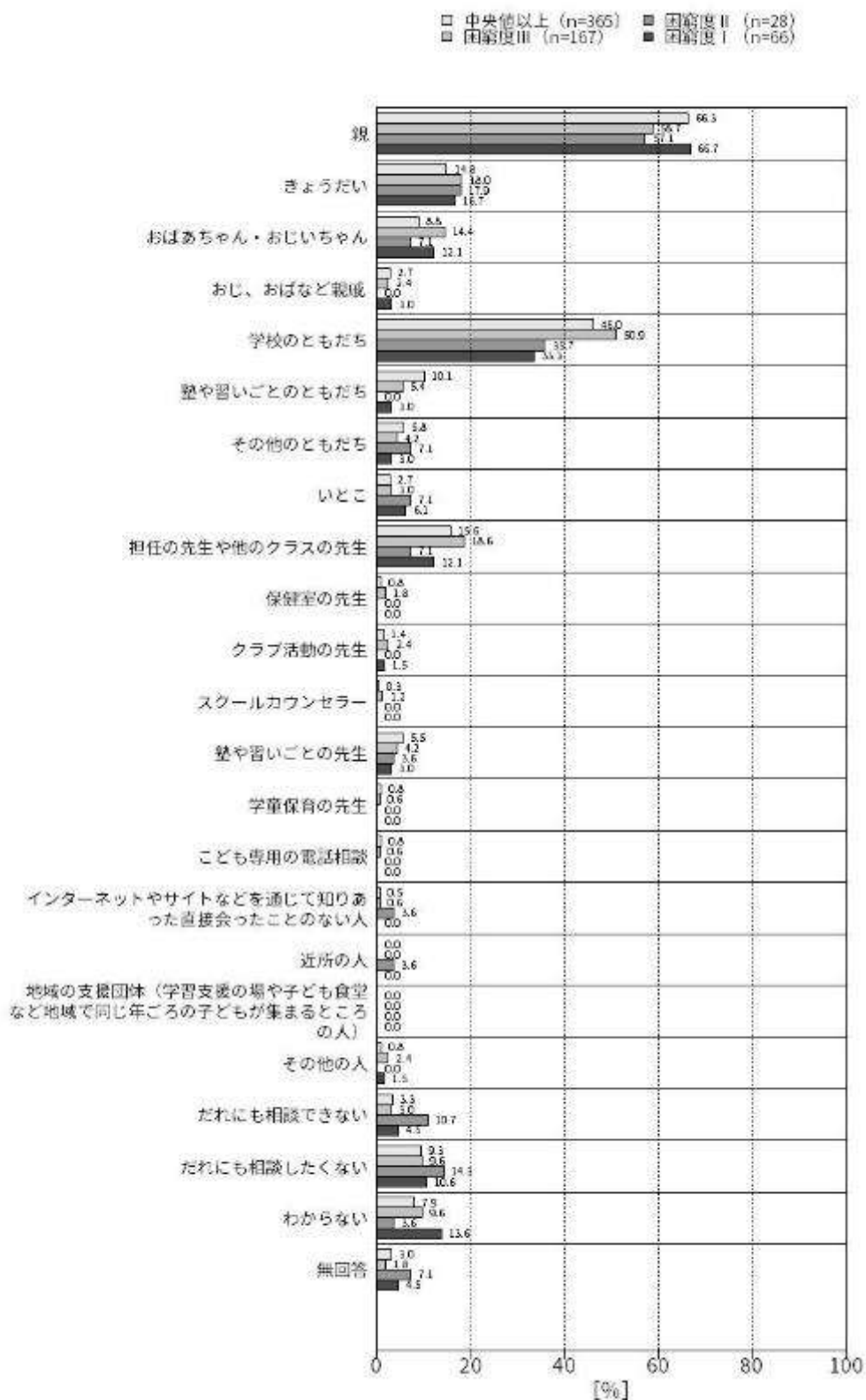
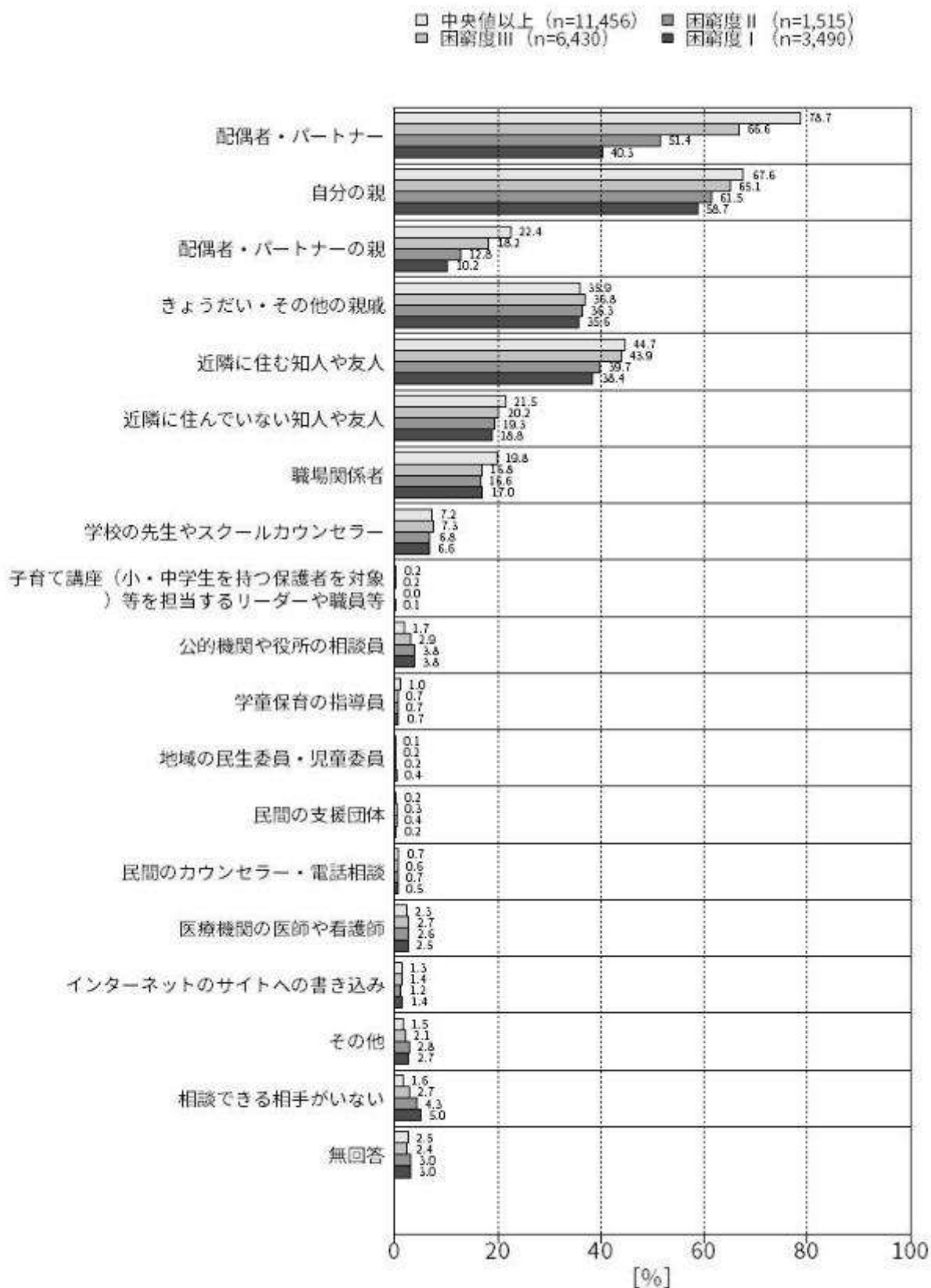


図 289. 困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

困窮度別に子どもの嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「いとこ」6.1%（中央値以上群に対して、2.3 倍）、「その他の人」1.5%（1.9 倍）、「わからない」13.6%（1.7 倍）が高かった。

困窮度別に見た、困ったときの相談先（保護者票 問 24）

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

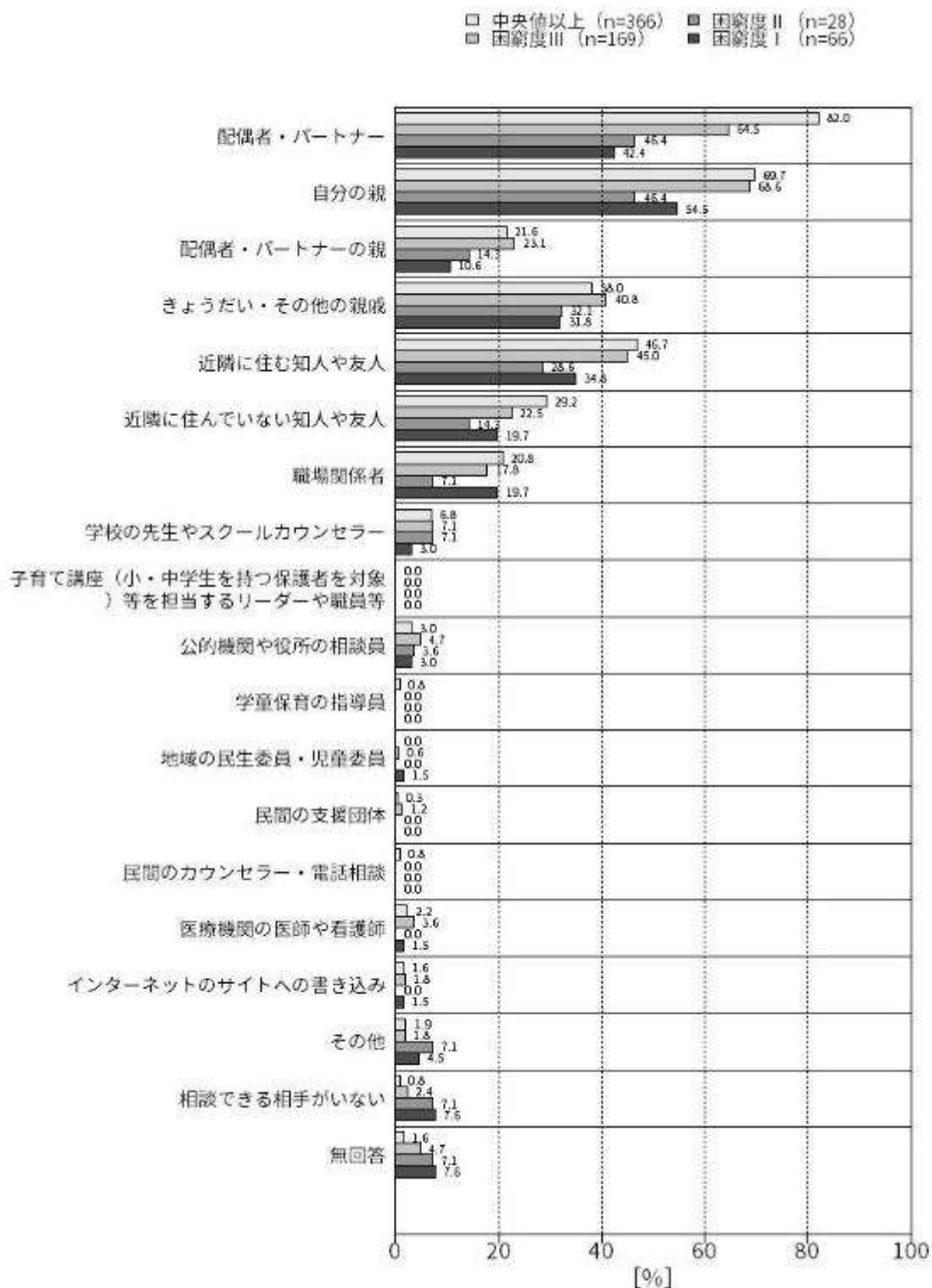
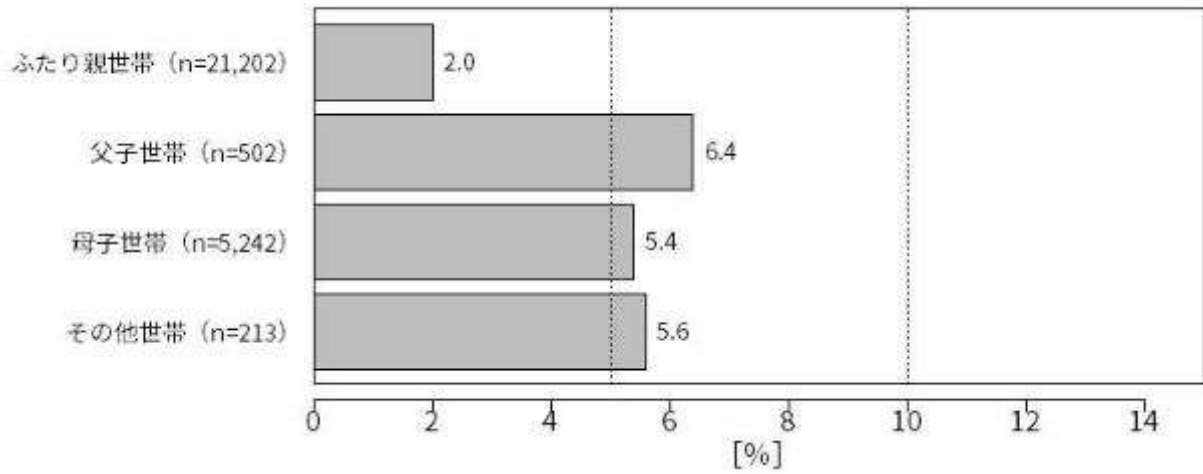


図 290. 困窮度別に見た、困ったときの相談先

困窮度別に保護者の困ったときの相談先を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「相談できる相手がいない」7.6%（中央値以上群に対して、9.5倍）、「その他」4.5%（2.4倍）が高かった。さらに、中央値以上群では「配偶者・パートナー」と回答した割合が82.0%だったのに対して、困窮度Ⅰ群では42.4%だった。

世帯構成別に見た、相談相手のいない割合（保護者票 問 24）

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

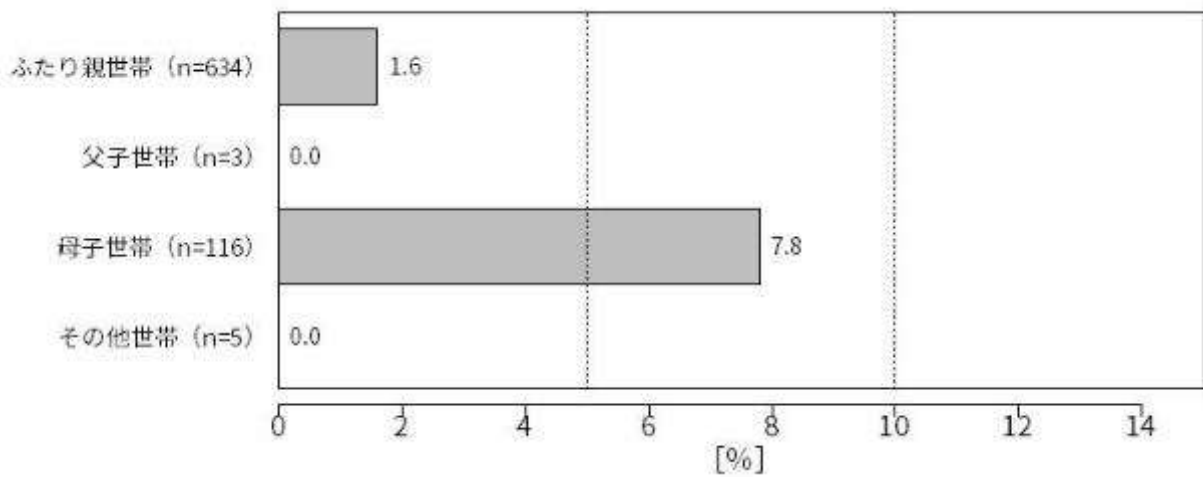


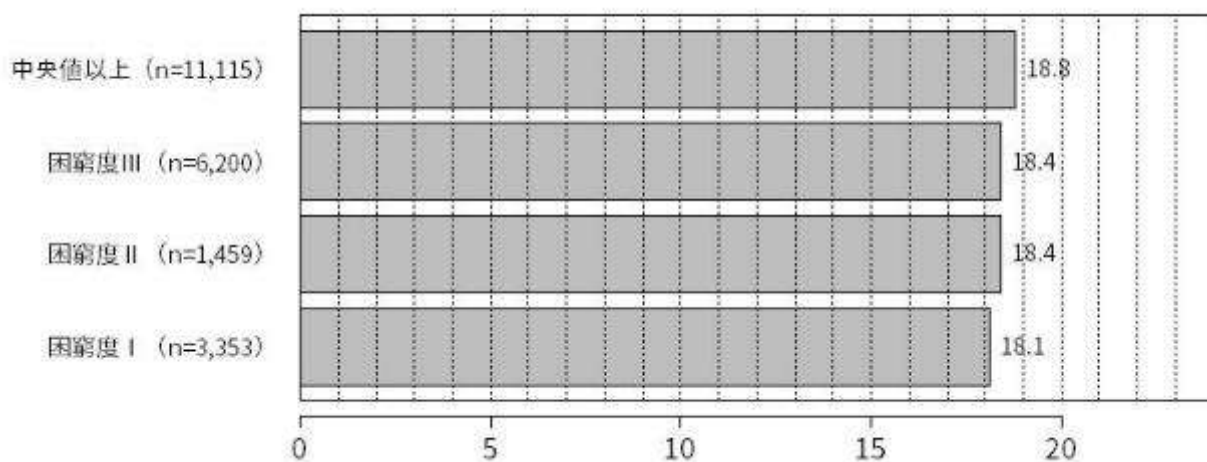
図 291. 世帯構成別に見た、相談相手のいない割合

世帯構成別に保護者の困ったときの相談先を見ると、「相談相手がいない」と回答した人は、ふたり親世帯で 1.6%、母子世帯で 7.8%であった。

困窮度別に見た、子どものセルフ・エフィカシー（子ども票 問 26(1)～(6)）

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

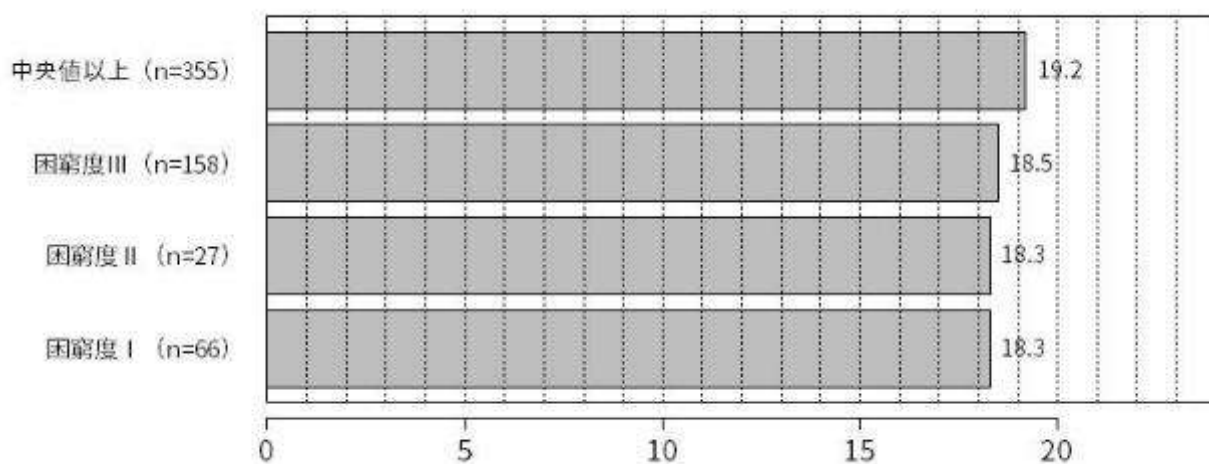


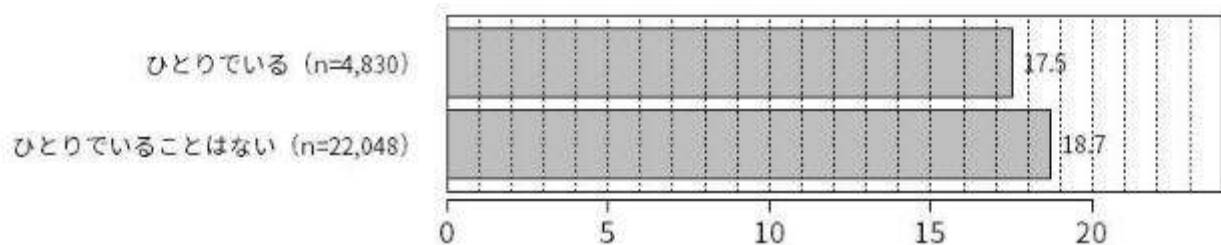
図 292. 困窮度別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

困窮度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、自己効力感（セルフ・エフィカシー）の平均値は、中央値以上群で 19.2 点、困窮度Ⅲ群で 18.5 点、困窮度Ⅱ群で 18.3 点、困窮度Ⅰ群で 18.3 点であった。

子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかと、子どものセルフ・エフィカシー
(子ども票 問 12 × 子ども票 問 26(1)～(6))

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

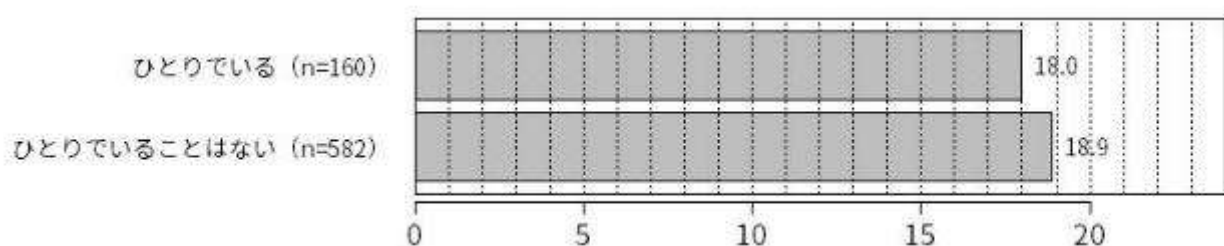


図 293. 子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかと、子どものセルフ・エフィカシー

子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかによって子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、放課後ひとりで過ごす子どもの方がそうでない子どもよりも自己効力感（セルフ・エフィカシー）が低かった。

困ったときの相談先別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

(子ども票 問 22 × 子ども票 問 26(1)～(6))

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

※「あなたは、いやなことや悩んでいることがあるとき、だれかに相談しますか。(だれに話しますか。)」に対し、以下のようにまとめた。

家族・親戚に相談：「親」「きょうだい」「おばあちゃん・おじいちゃん」「おじ・おばなど親戚」

「いとこ」のうち1つ以上に回答した人

ともだちに相談：「学校のともだち」「塾や習い事のともだち」「その他のともだち」のうち1つ以上に回答した人

先生に相談する：「担任の先生や他のクラスの先生」「保健室の先生」「クラブ活動や部活の先生」のうち1つ以上に回答した人

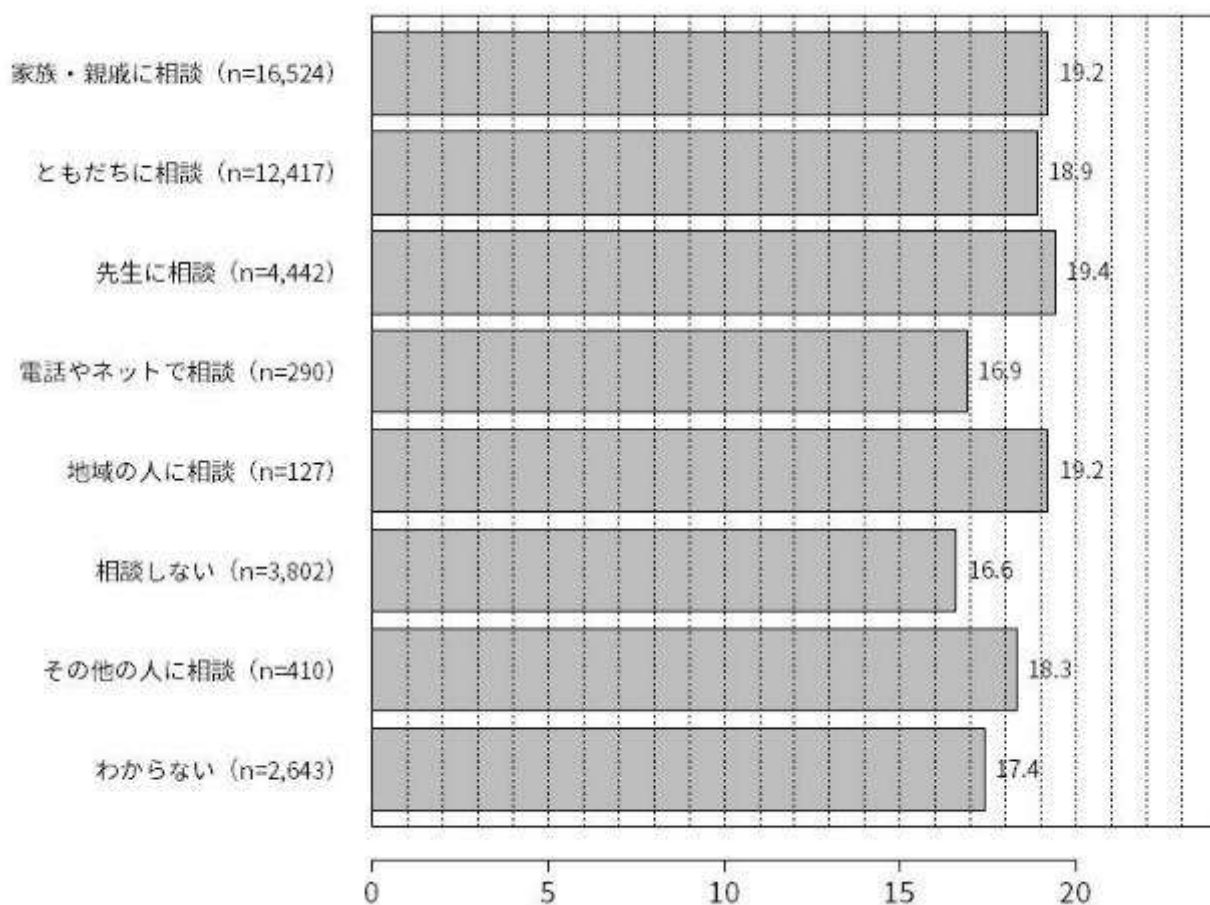
「スクールカウンセラー」「塾や習いごとの先生」「学童保育、児童いきいき放課後事業の先生」のうち1つ以上に回答した人

電話やネットで相談する群：「子ども専用の電話相談」「インターネットやサイトを通じて知り合った直接会ったことのない人」のうち1つ以上に回答した人

地域の人に相談する群：「近所の人」「地域の支援団体」のうち1つ以上に回答した人

相談しない群：「だれにも相談できない」「だれにも相談したくない」のうち1つ以上に回答した人

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

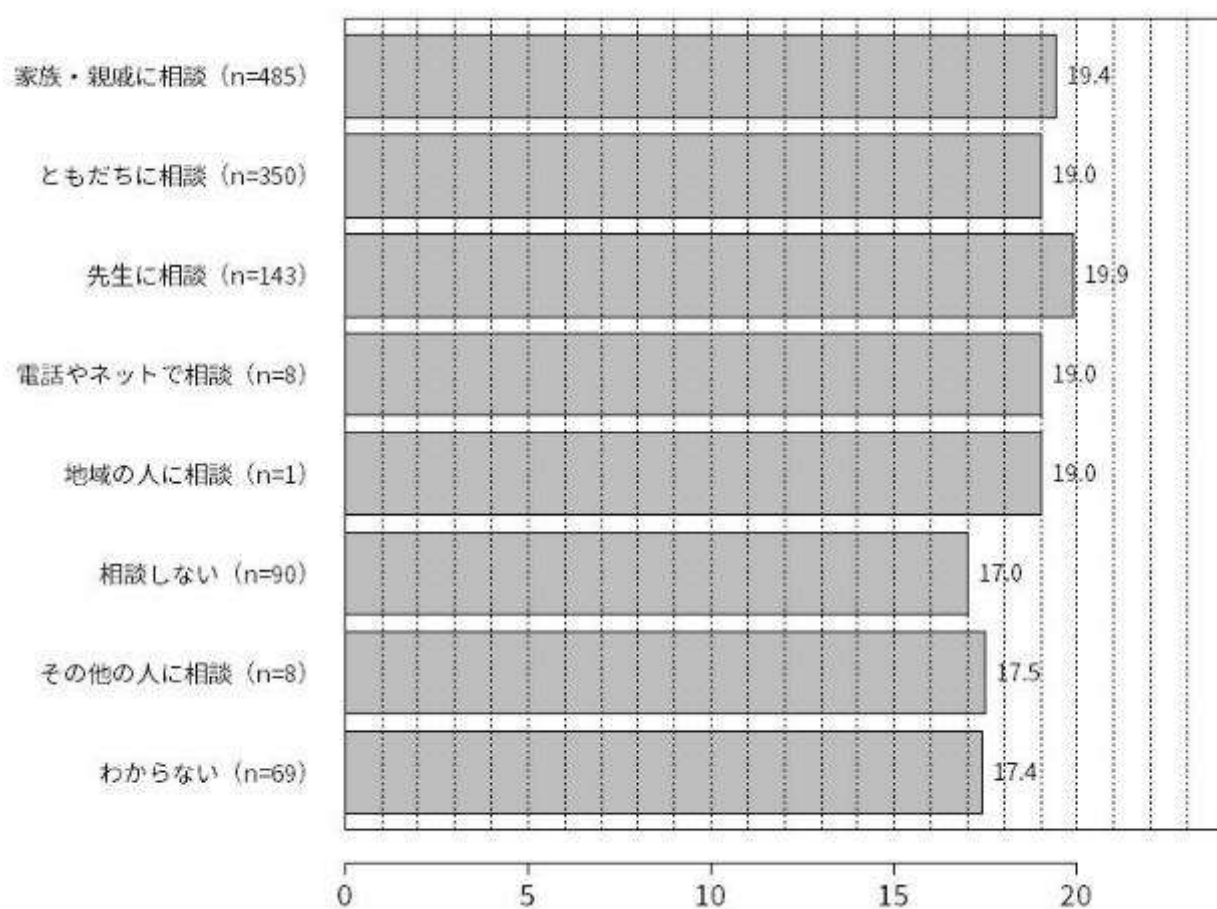


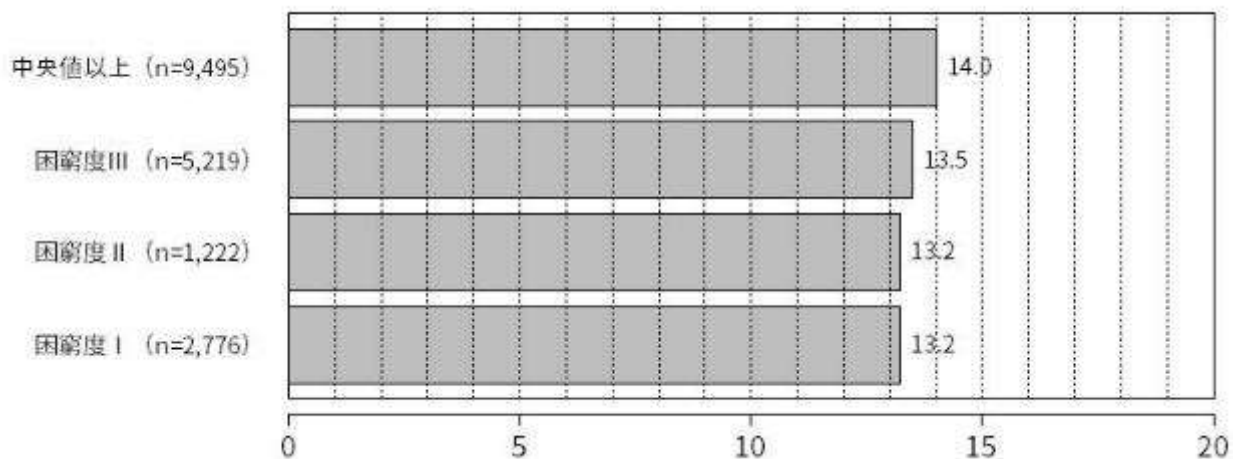
図 294. 困ったときの相談先別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）によって子どもの嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、低い順に「相談しない」17.0点、「わからない」17.4点、「その他の人に相談」17.5点であった。

困窮度別に見た、保護者のセルフ・エフィカシー（保護者票 問 29①～⑤）

※保護者のセルフ・エフィカシーについては図 197 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

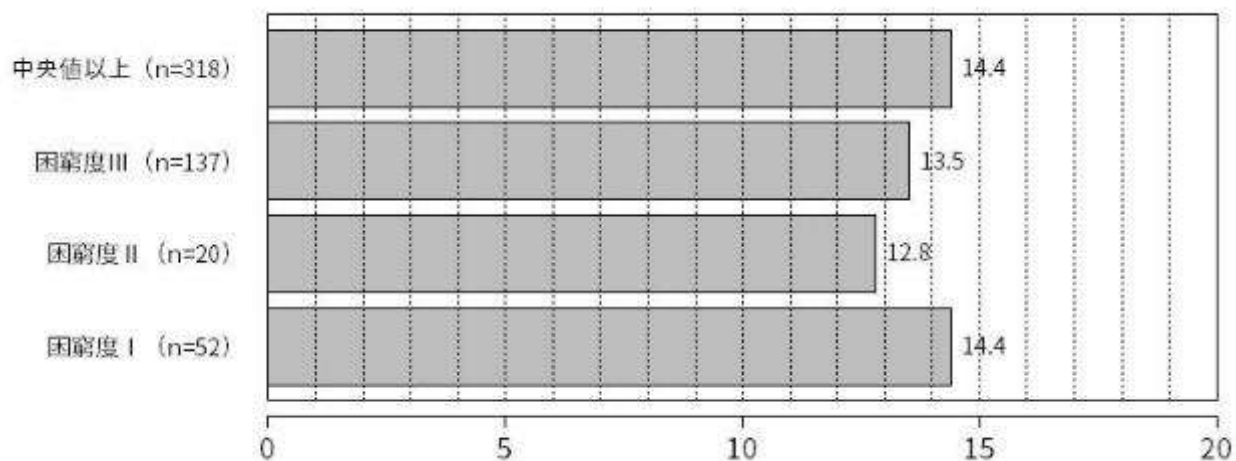


図 295. 困窮度別に見た、保護者のセルフ・エフィカシー

困窮度別に保護者の自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、中央値以上群で 14.4 点、困窮度Ⅰ群で 14.4 点であった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
(家の手伝いをするか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10④)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

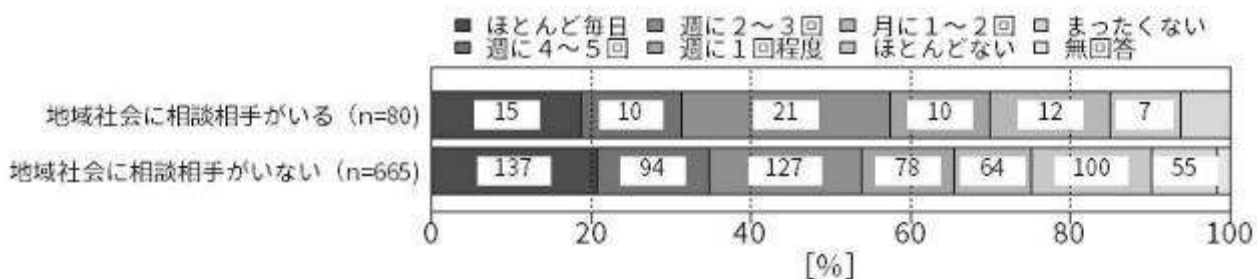


図 296. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
(家の手伝いをするか)

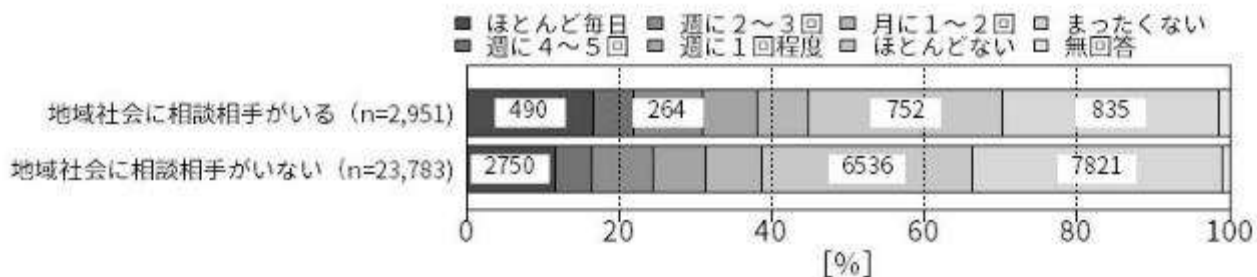
地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり（家の手伝いをするか）を見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、子どもが「おうちの手伝いをするか」に「ほとんど毎日」と回答する割合が低かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり

(おうちの大人に宿題をみてもらうか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10⑤)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

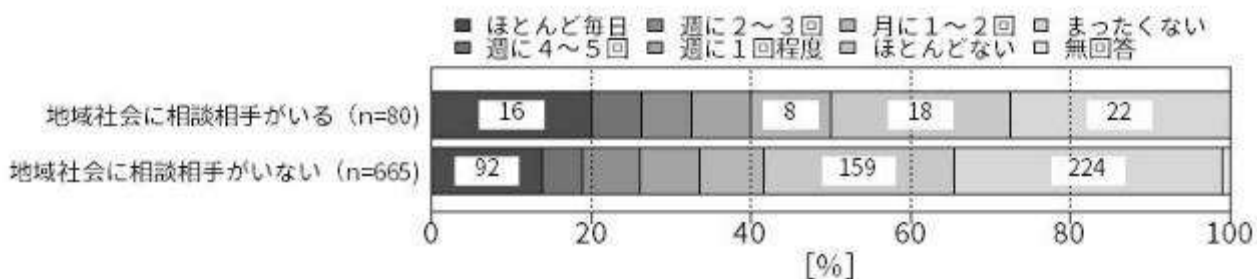


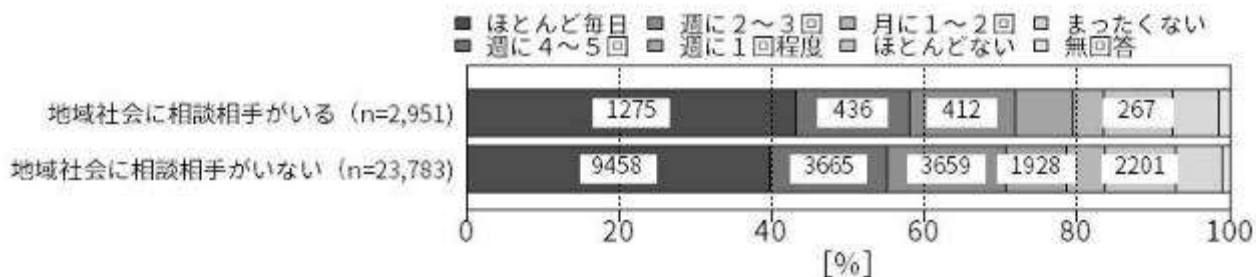
図 297. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
(おうちの大人に宿題をみてもらうか)

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）を見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、「おうちの大人の人に宿題（勉強）を見てもらっている」に「ほとんど毎日」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
 (おうちの大人と学校の話をするか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10⑥)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

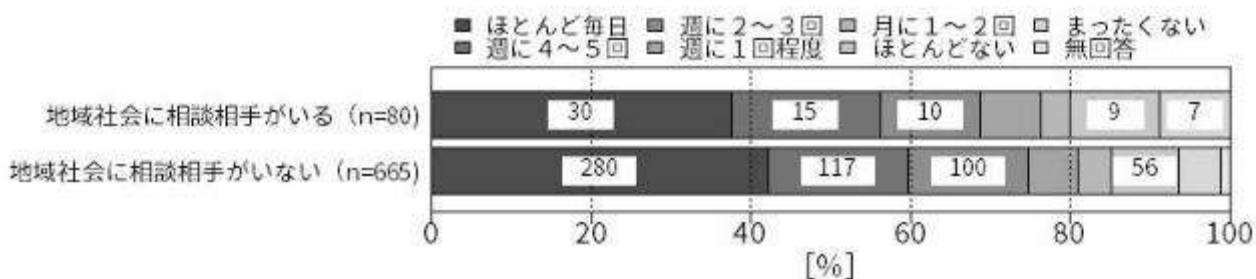


図 298. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
 (おうちの大人と学校の話をするか)

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と学校の話をするか）を見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、「おうちの大人の人と学校のできごとについて話す」に「ほとんど毎日」と回答する割合が低かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり

(おうちの大人と遊んだり、体を動かすか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10⑦)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

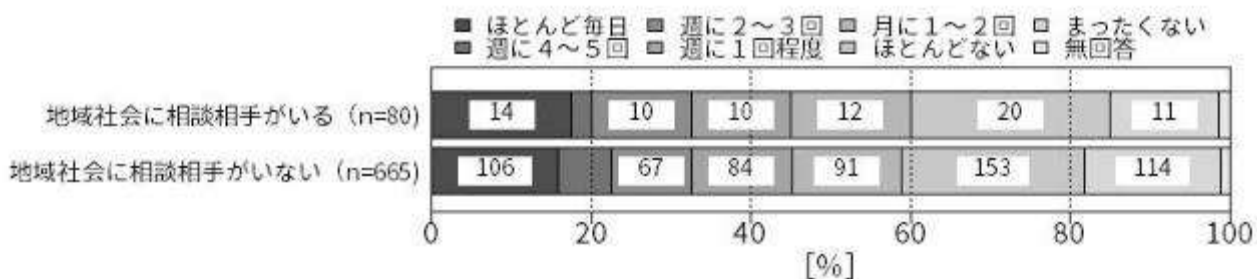


図 299. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
(おうちの大人と遊んだり、体を動かすか)

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と遊んだり、体を動かすか）を見ると、「地域社会に相談相手がいる」か「地域社会に相談相手がない」かによって、子どもが「おうちの大人のひとと遊んだり、体を動かしたりする」に差はなかった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり

(おうちの大人と社会のできごとを話すか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10⑧)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

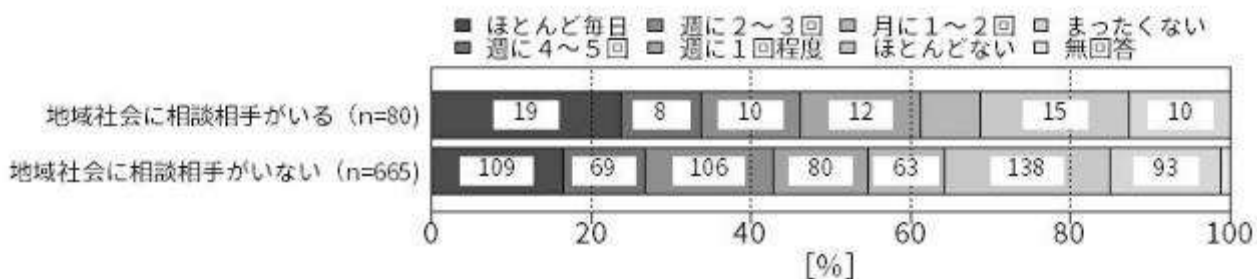


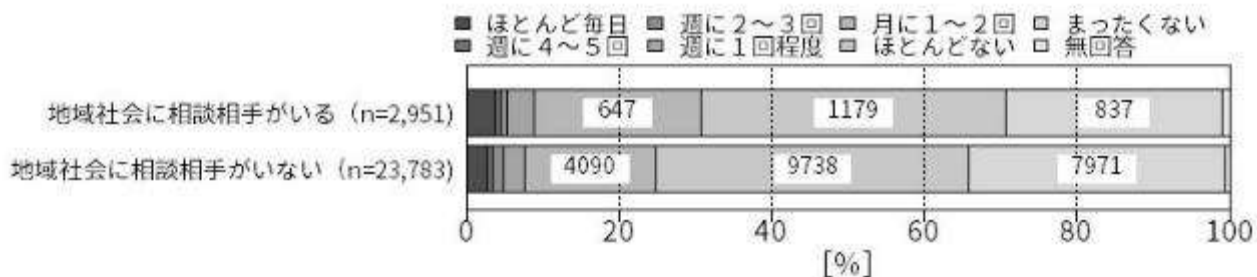
図 300. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
(おうちの大人と社会のできごとを話すか)

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と社会のできごとを話すか）を見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、子どもが「ニュースなど社会のできごとを話す」に「ほとんど毎日」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
（おうちの大人と文化活動をするか）（保護者票 問 24 × 子ども票 問 10⑨）

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

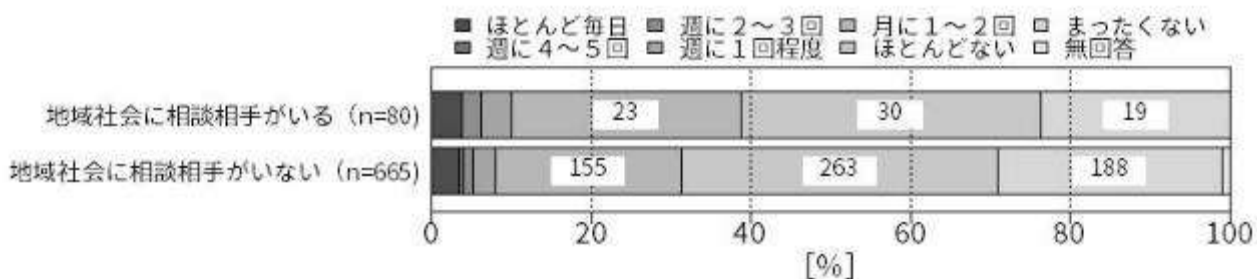


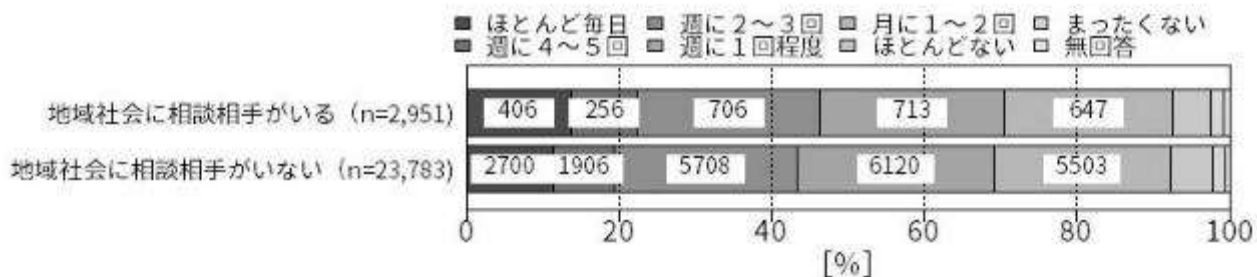
図 301. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
（おうちの大人と文化活動をするか）

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と文化活動をするか）を見ると、「地域社会に相談相手がいる」か「地域社会に相談相手がない」かによって、子どもが「おうちの大人と文化活動（図書館や美術館、博物館、音楽鑑賞に行くなど）をする」に差はなかった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
 (おうちの大人と一緒に外出するか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10⑩)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

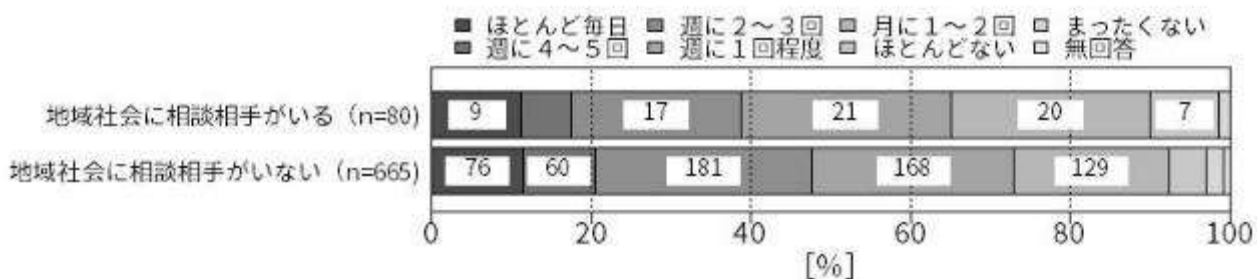


図 302. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
 (おうちの大人と一緒に外出するか)

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と一緒に外出するか）を見ると、「地域社会に相談相手がいる」か「地域社会に相談相手がない」かによって、子どもが地域社会に相談相手がいるかいないかによって「おうちの大人の人と一緒に外出する」に差はなかった。

<対人関係に関する考察>

困窮度別に数値の高い上位2つの項目をみると（ただし「自分の家」はどれも多いので省く）、子どもが放課後に過ごす場所では、困窮度Ⅰ群は、「ともだちの家」27.3%（大阪市全体：19.7%）、「スーパーやショッピングモール」9.1%（大阪市全体：5.7%）であった。また、中央値以上群では「習いごと」42.7%（大阪市全体：36.4%）、「塾」36.7%（大阪市全体：30.8%）が高かった。この結果は、大阪市全体と比較しても高かった。困窮度別に子どもが放課後に一緒に過ごしている人物をみると（ただし、どの群も高かったおうちの大人ときょうだい、学校の友達以外）、「ひとりでいる」の困窮度Ⅰ群が25.8%（大阪市全体：18.3%）、中央値以上群が20.8%（大阪市全体：17.7%）のように困窮度ごとに顕著な差がみられなかった。これは、保護者が放課後に子どもと一緒にいると回答した人物、子どもが毎日の生活で楽しいことについても同じ傾向であった。中央値以上群の数値を挙げると、「ともだちと一緒に過ごしているとき」87.1%（大阪市全体：83.0%）、「塾や習い事で過ごしているとき」38.1%（大阪市全体：30.4%）が高かった。

子どもが悩んでいることでは、差が大きい項目に着目すると、困窮度Ⅰ群では、「学校や勉強のこと」21.2%（大阪市全体：24.4%）、「わからない」13.6%（大阪市全体：14.1%）、中央値以上群では「いやなことや悩んでいることはない」41.9%（大阪市全体：37.0%）、「自分のこと（外見や体型など）」16.2%（大阪市全体：17.9%）の差が大きかった。

困窮度別に保護者の相談相手をみると、中央値以上群では「配偶者・パートナー」と回答した割合が82.0%（大阪市全体：78.7%）だったのに対して、困窮度Ⅰ群では42.4%（大阪市全体：40.3%）だった。大阪市全体と同様、差が大きかった。

保護者が「地域社会に相談相手がいる」人では、ほとんど毎日、子どもがおうちの大人の人に宿題をみてもらい（20.0%）、おうちの大人の人と社会のできごとについて話している（23.8%）。

B. 5歳児保護者調査報告書

1. 回答者の属性

5歳児-1 続柄

問1 この調査に回答いただいている方におたずねします。お子さんとあなたの続柄について教えてください。（あてはまる番号1つに○をつけてください。）

大阪市福島区では、「お母さん」が84.9%、「お父さん」が5.0%、「おばあさん・おじいさん」が該当なし、「おじ、おばなど親戚」が該当なし、「施設職員・ファミリーホーム・里親」が該当なし、「その他の人」が該当なし、「無回答」が10.1%であった。

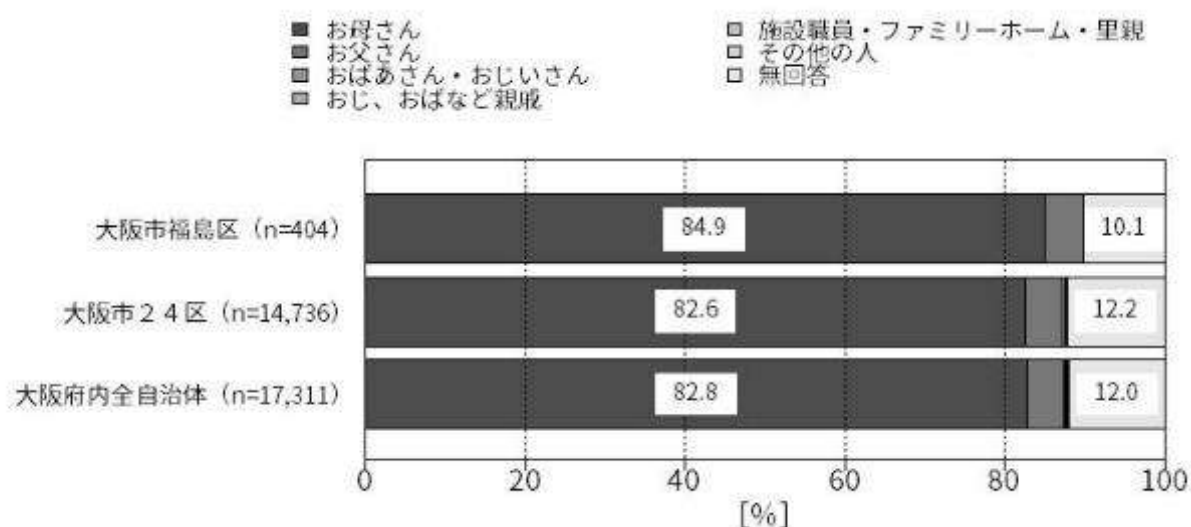


図 1. 回答者の続柄

2. 単純集計

(1) 経済状況

5歳児-41-4 世帯収入額

(4) 前年(2015年)のあなたの世帯の収入の合計額は、およそいくらでしたか。
(あてはまる番号1つに○をつけてください。)

大阪市福島区では、「400～450万円未満」が8.4%、「500～550万円未満」が7.7%、「350～400万円未満」が7.4%、「450～500万円未満」が6.7%の順に高くなっている。（グラフは大阪市24区・大阪府内全体のもののみ）

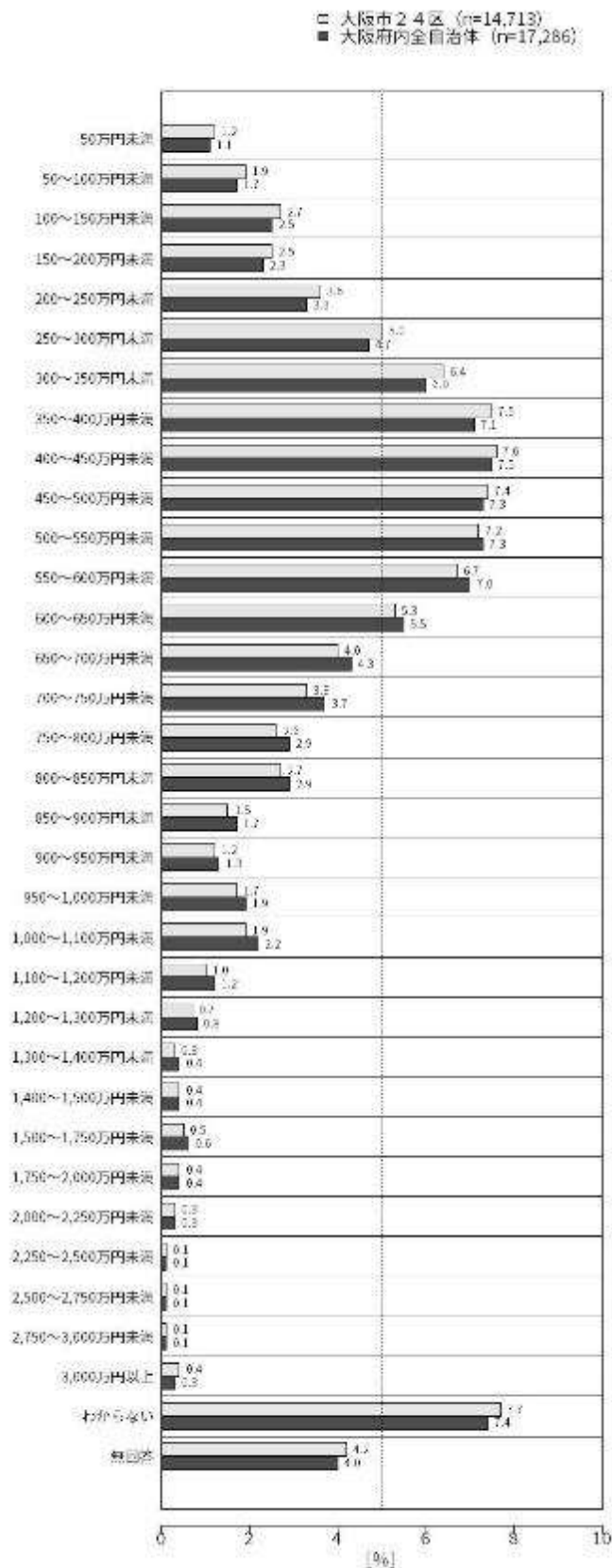


図 2. 世帯収入額

等価可処分所得に基づく困窮度の分類

表 1. 困窮度別人数

困窮度分類	人数	%
中央値以上	6657	52.5
困窮度Ⅲ	3749	29.6
困窮度Ⅱ	774	6.1
困窮度Ⅰ	1500	11.8
合計	12680	100.0

5 歳児-6 経済的な理由による経験

問6 あなたの世帯では、経済的な理由で、次のような経験をされたことがありますか。おおむね半年の間でお考えください。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

大阪市福島区では、「新しい衣服・靴を買うのを控えた」が41.6%、「趣味やレジャーの出費を減らした」が37.9%、「食費を切りつめた」が34.9%、「理髪店・美容院に行く回数を減らした」が32.2%、「友人・知人との外食を控えた」が30.9%の順に高くなっている。

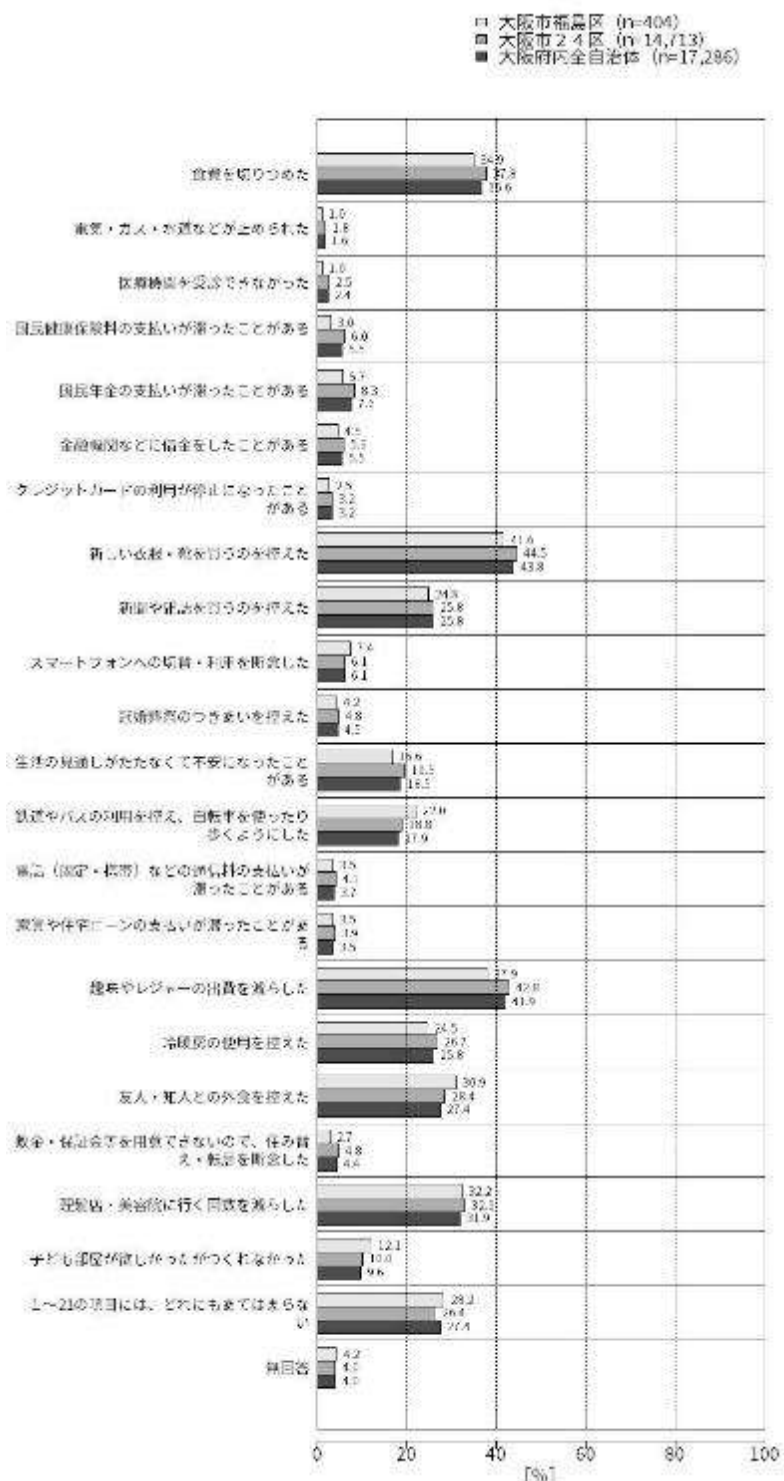


図 3. 経済的な理由による経験

5 歳児-29 経済的な理由による経験

問 29 あなたの世帯では、経済的な理由で、次のような経験をされたことがありますか。

(おおむね 1 年の間でお考えください。あてはまる番号すべてに○をつけてください。)

大阪市福島区では、「1～13 の項目には、どれにもあてはまらない」が 62.4%、「家族旅行（テーマパークなど日帰りのおでかけを含む）ができなかった」が 18.6%、「子どもを習い事に通わせることができなかった」が 15.6%、「無回答」が 10.9%、「子どもに新しい服や靴を買うことができなかった」が 7.9% の順に高くなっている。

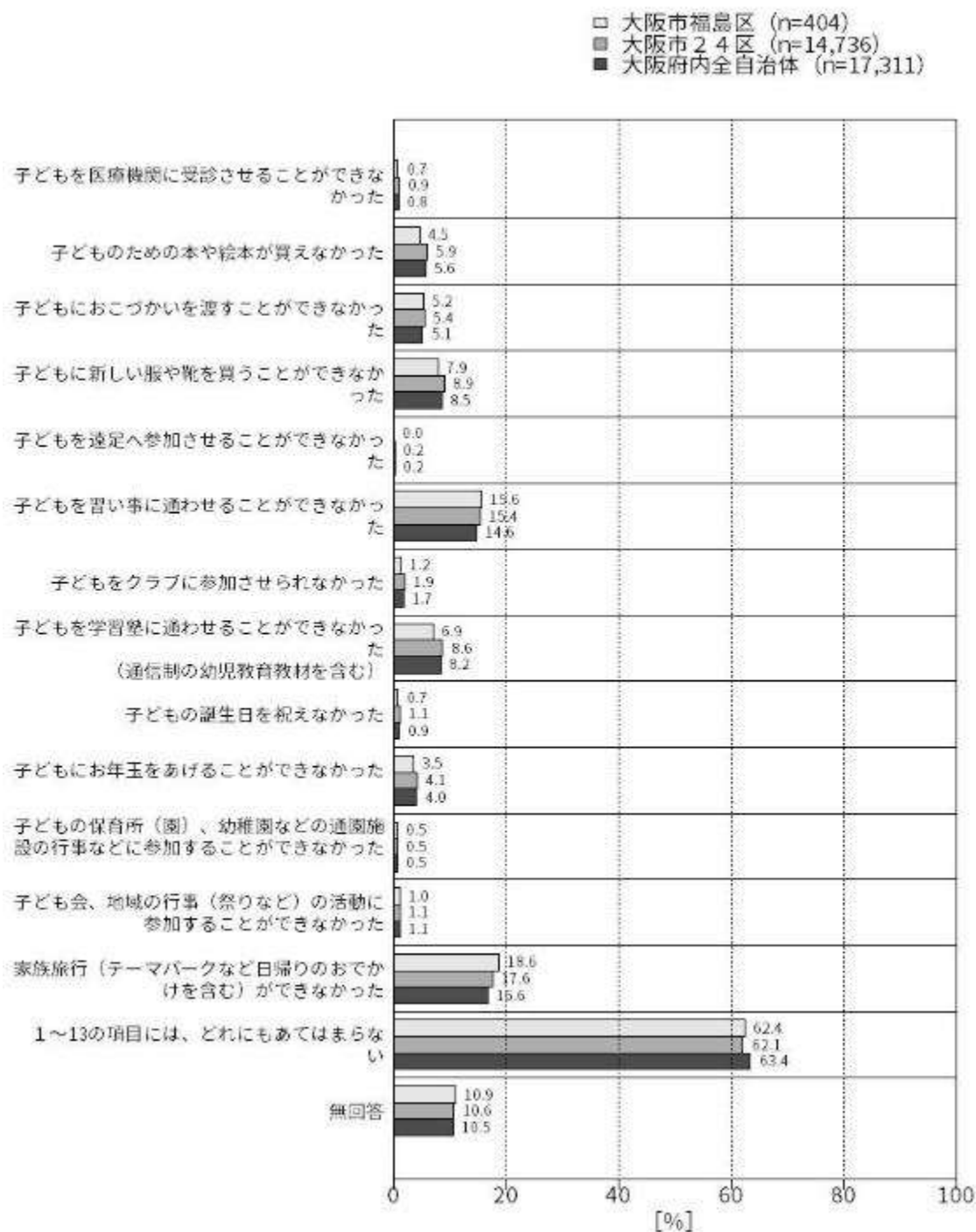


図 4. 子どもへの経済的な理由による経験

5 歳児-5-1 家計状況

問5（1）前年（2015 年）の1年間のあなたの家計の状況について、あてはまる番号1つに○をつけてください

大阪市福島区では、「貯蓄ができています」が38.9%、「赤字でもなく黒字でもない」が30.0%、「赤字である」が25.0%、「わからない」が4.7%、「無回答」が1.5%であった。

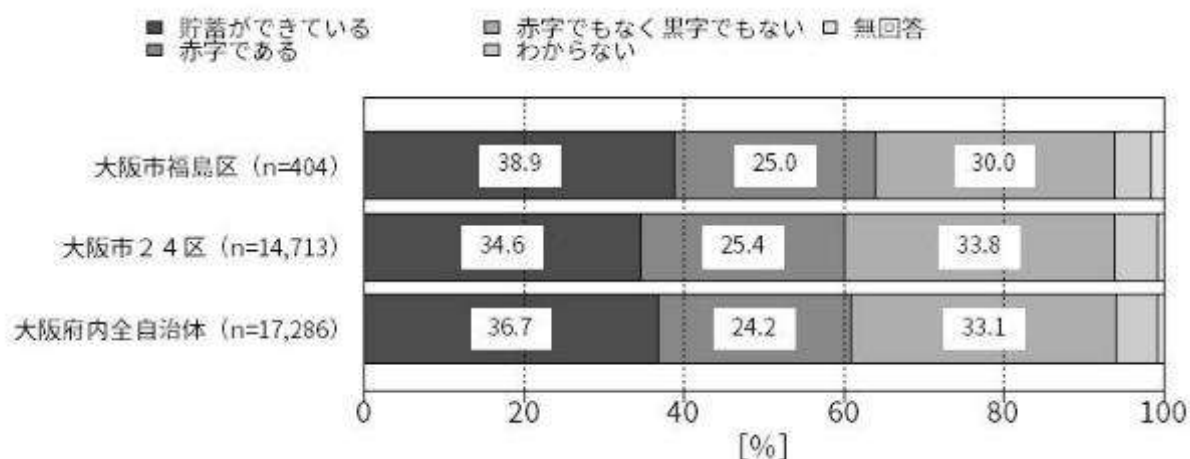


図 5. 家計状況

5 歳児-5-2 赤字の場合の対処

問5（2）問5（1）で「2. 赤字である」と答えた方におたずねします。赤字の場合はどのようにしていますか。（あてはまる番号1つに○をつけてください）

大阪市福島区では、「貯金、預金のとりくずし」が61.4%、「親や親族などからの仕送り」が18.8%、「金融機関等からの借入」が10.9%、「その他」が6.9%、「無回答」が2.0%であった。

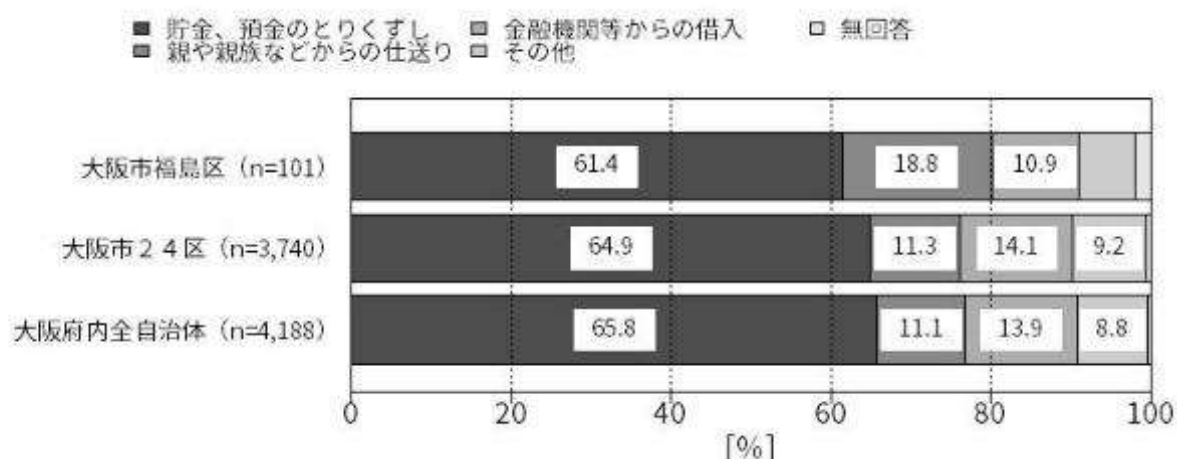


図 6. 赤字の場合の対処

5 歳児-5-3 子どもの貯蓄

問5（3）お子さんの将来のために貯蓄をしていますか。（あてはまる番号1つに○をつけてください）

大阪市福島区では、「貯蓄をしている」が67.6%、「貯蓄をしたいが、できていない」が31.9%、「貯蓄をするつもりはない」が該当なし、「無回答」が0.5%であった。

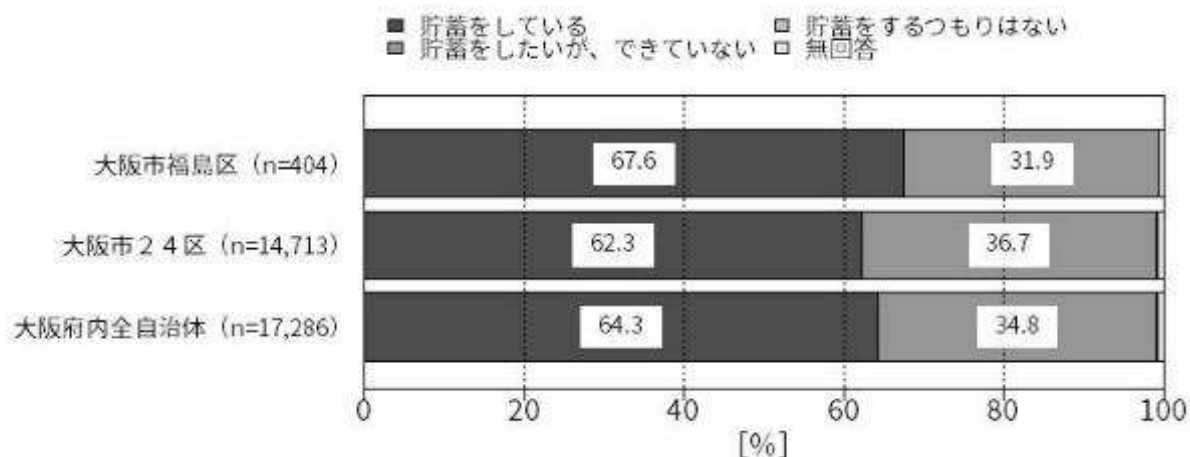


図 7. 子どもの貯蓄

5 歳児-41-3-1 児童手当

問41（3）① 児童手当（あてはまる番号1つに○をつけてください。）

大阪市福島区では、「受けている」が86.9%、「受けたことがある」が1.0%、「受けたことはない」が4.5%、「無回答」が7.7%であった。

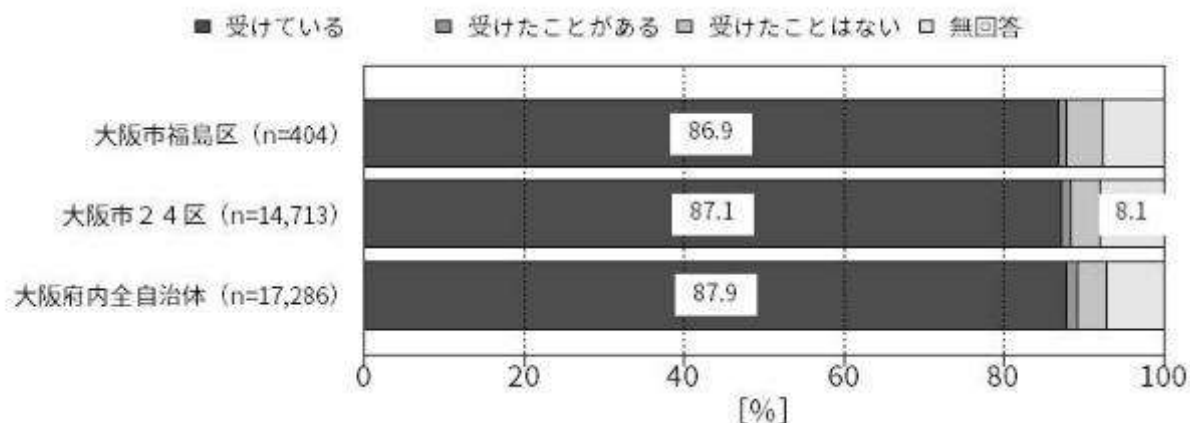


図 8. 児童手当

5 歳児-41-3-2 就学援助費

問 41（3）② 就学援助費（あてはまる番号 1 つに○をつけてください。）

大阪市福島区では、「受けている」が 3.2%、「受けたことがある」が 2.5%、「受けたことはない」が 69.6%、「無回答」が 24.8%であった。

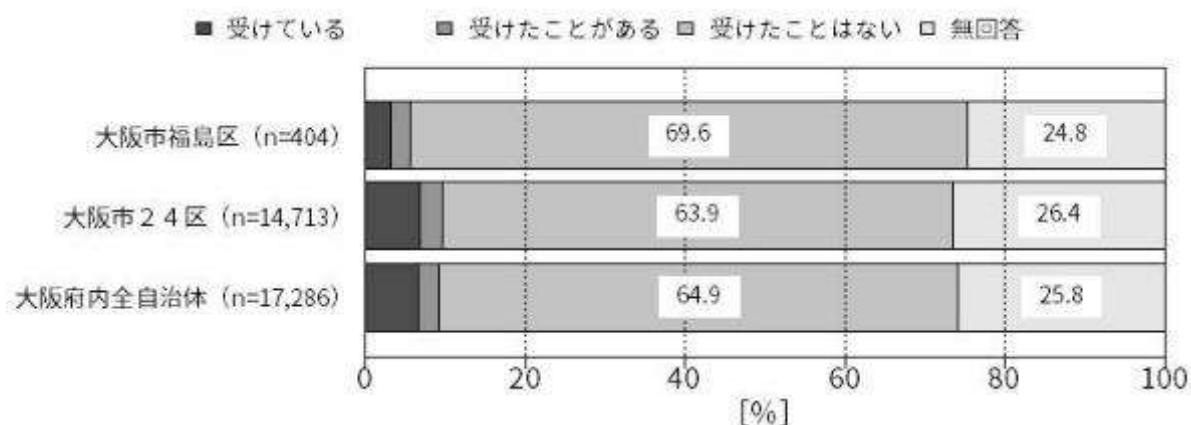


図 9. 就学援助費

5 歳児-41-3-3 児童扶養手当

問 41（3）③ 児童扶養手当（あてはまる番号 1 つに○をつけてください。）

大阪市福島区では、「受けている」が 7.7%、「受けたことがある」が 2.7%、「受けたことはない」が 65.8%、「無回答」が 23.8%であった。

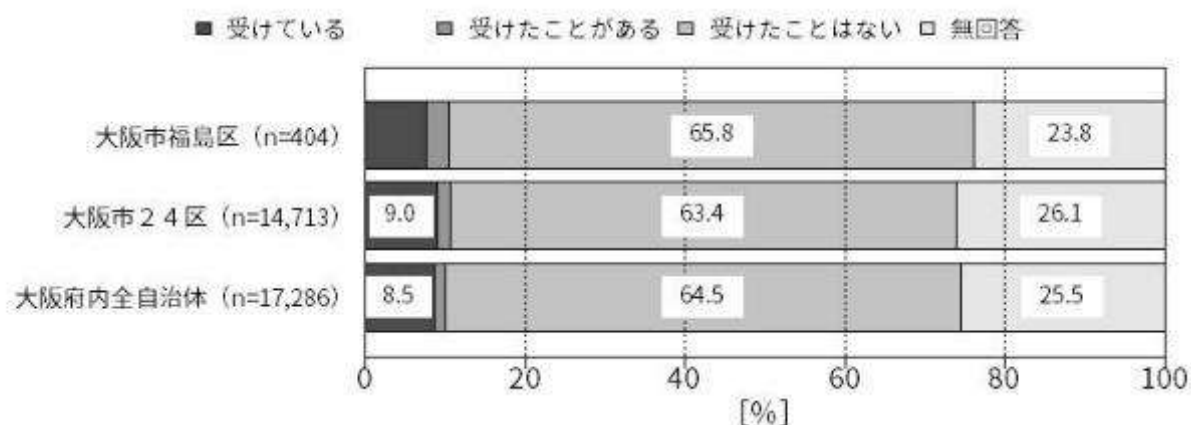


図 10. 児童扶養手当

5 歳児-41-3-3 児童扶養手当 ひとり親

問 41（3）③ 児童扶養手当（ひとり親）

大阪市福島区では、「受けている」が 44.7%、「受けたことがある」が 8.5%、「受けたことはない」が 27.7%、「無回答」が 19.1%であった。

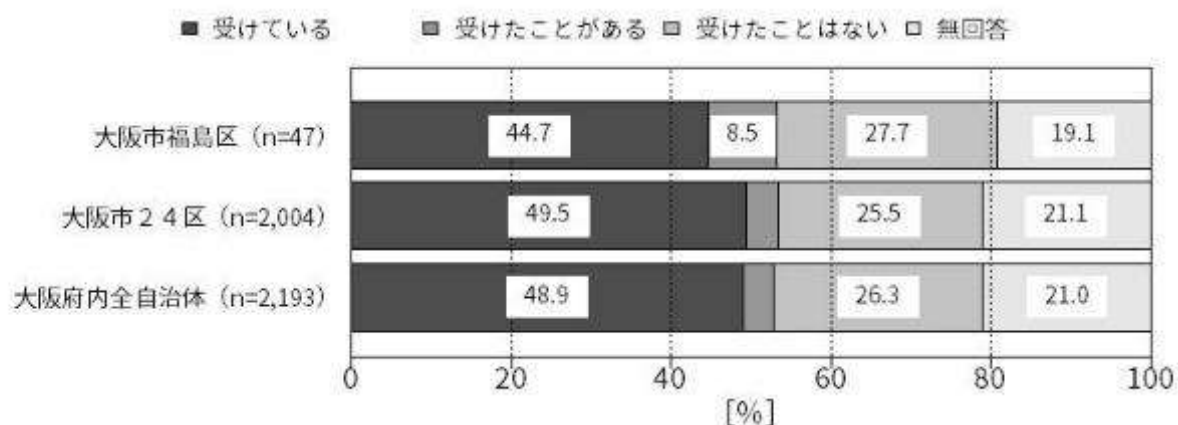


図 11. 児童扶養手当（ひとり親世帯）

5 歳児-41-3-3 児童扶養手当 母子世帯

問 41（3）③ 児童扶養手当（母子世帯）

大阪市福島区では、「受けたことがある」が 6.8%、「受けたことはない」が 27.3%、「無回答」が 18.2%であった。

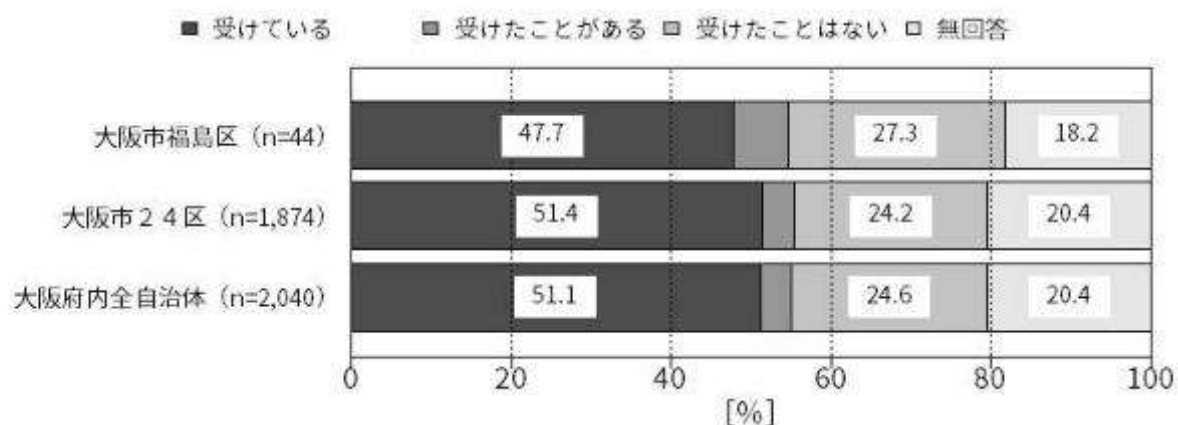


図 12. 児童扶養手当（母子世帯）

5 歳児-41-3-3 児童扶養手当 父子世帯

問 41（3）③ 児童扶養手当（父子世帯）

大阪市福島区では、「受けている」が該当なし、「受けたことがある」が 33.3%、「受けたことはない」が 33.3%、「無回答」が 33.3%であった。

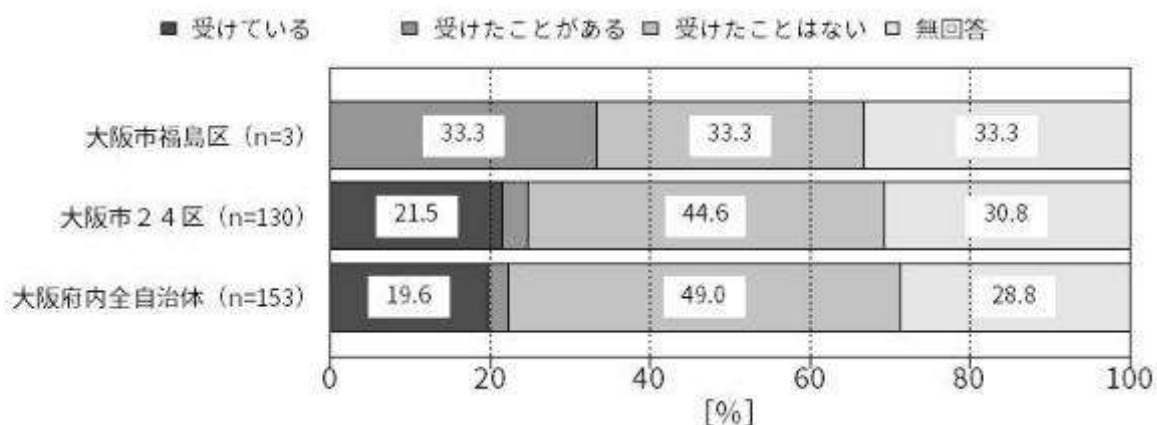


図 13. 児童扶養手当（父子世帯）

5 歳児-41-3-5 生活保護

問 41（3）⑤ 生活保護（あてはまる番号 1 つに○をつけてください。）

大阪市福島区では、「受けている」が 0.2%、「受けたことがある」が 0.2%、「受けたことはない」が 73.8%、「無回答」が 25.7%であった。

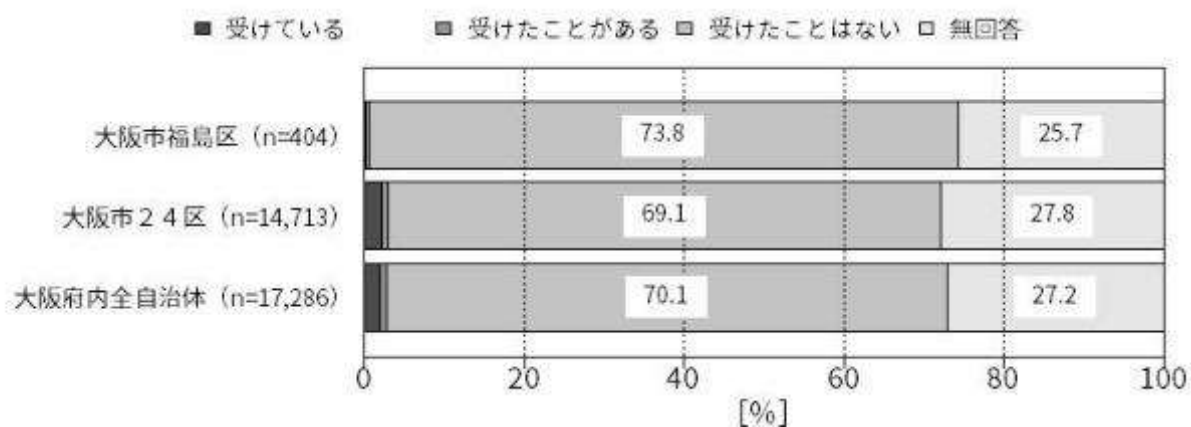


図 14. 生活保護

5 歳児-41-3-9 養育費

問 41（3）⑨ 養育費（あてはまる番号 1 つに○をつけてください。）

大阪市福島区では、「受けている」が 2.0%、「受けたことがある」が 2.0%、「受けたことはない」が 70.8%、「無回答」が 25.2%であった。

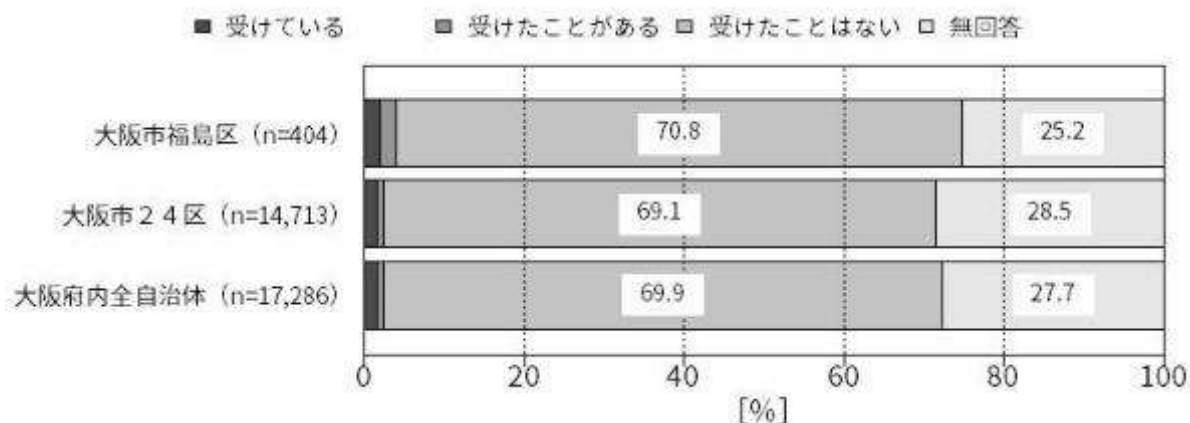


図 15. 養育費

5 歳児-41-3-9 養育費 ひとり親

問 41（3）⑨ 養育費（ひとり親）

大阪市福島区では、「受けている」が 17.0%、「受けたことがある」が 8.5%、「受けたことはない」が 46.8%、「無回答」が 27.7%であった。

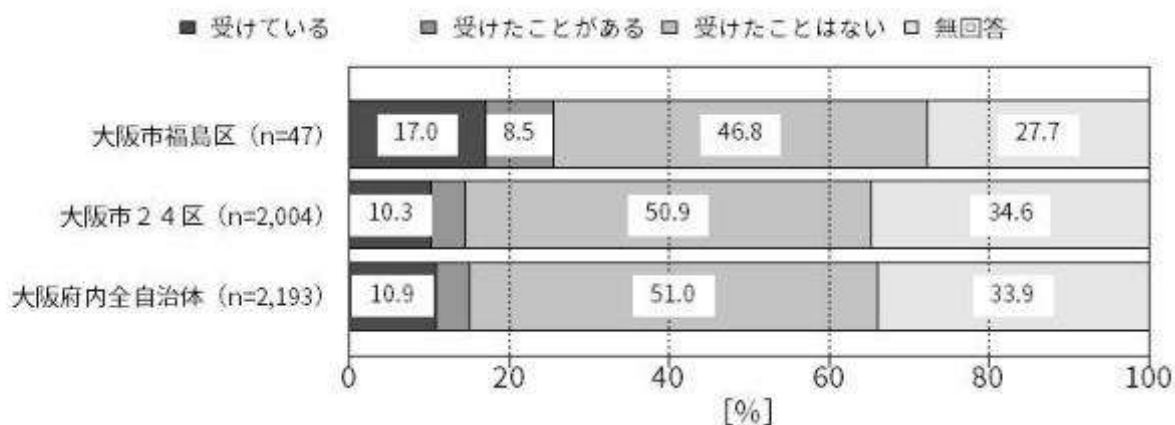


図 16. 養育費（ひとり親世帯）

5 歳児-41-3-9 養育費 母子世帯

問 41 (3) ⑨ 養育費 (母子世帯)

大阪市福島区では、「受けている」が 18.2%、「受けたことがある」が 6.8%、「受けたことはない」が 47.7%、「無回答」が 27.3%であった。

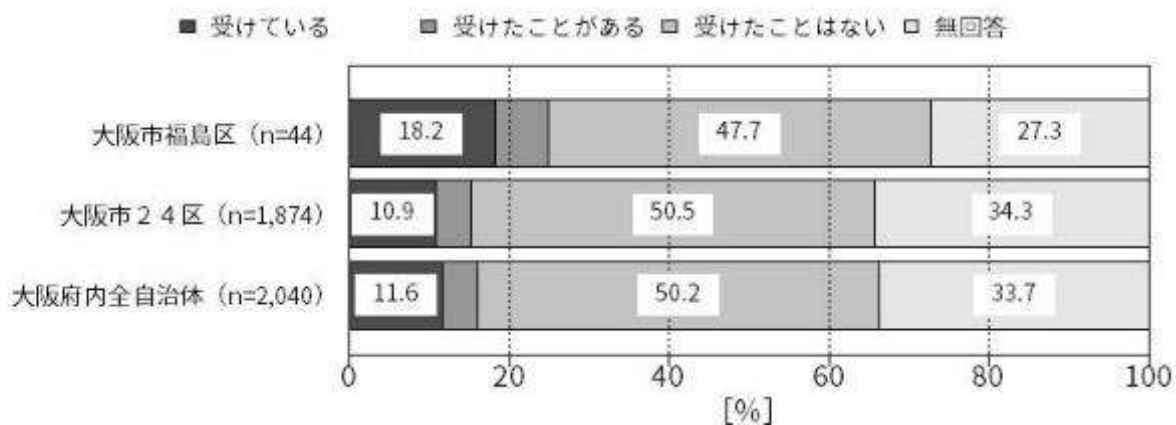


図 17. 養育費 (母子世帯)

5 歳児-41-3-9 養育費 父子世帯

問 41 (3) ⑨ 養育費 (父子世帯)

大阪市福島区 (サンプル数 3 件) では、「受けている」が該当なし、「受けたことがある」が 33.3%、「受けたことはない」が 33.3%、「無回答」が 33.3%であった。

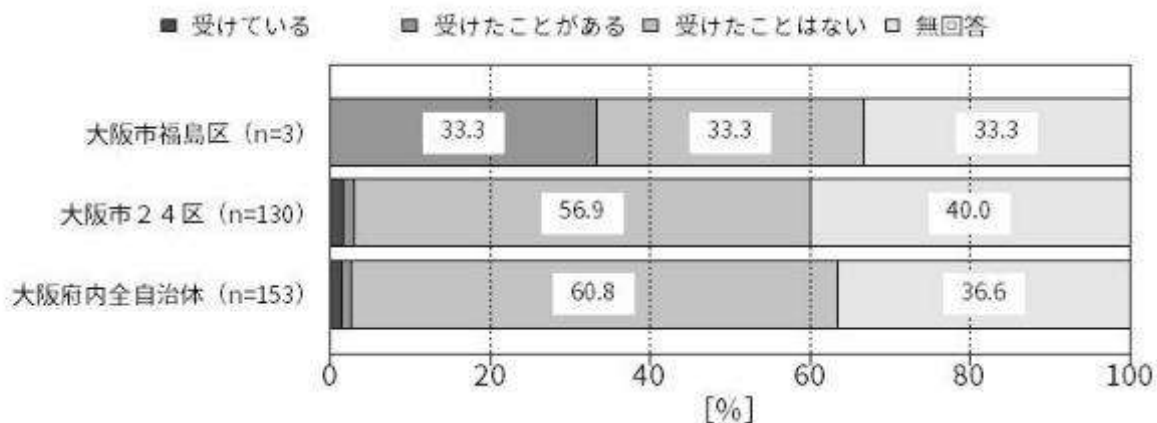


図 18. 養育費 (父子世帯)

5 歳児-41-3-10 親・親族からの仕送り

問 41（3）⑩ 親・親族からの仕送り（あてはまる番号 1 つに○をつけてください。）

大阪市福島区では、「受けている」が 3.7%、「受けたことがある」が 9.4%、「受けたことはない」が 62.1%、「無回答」が 24.8%であった。

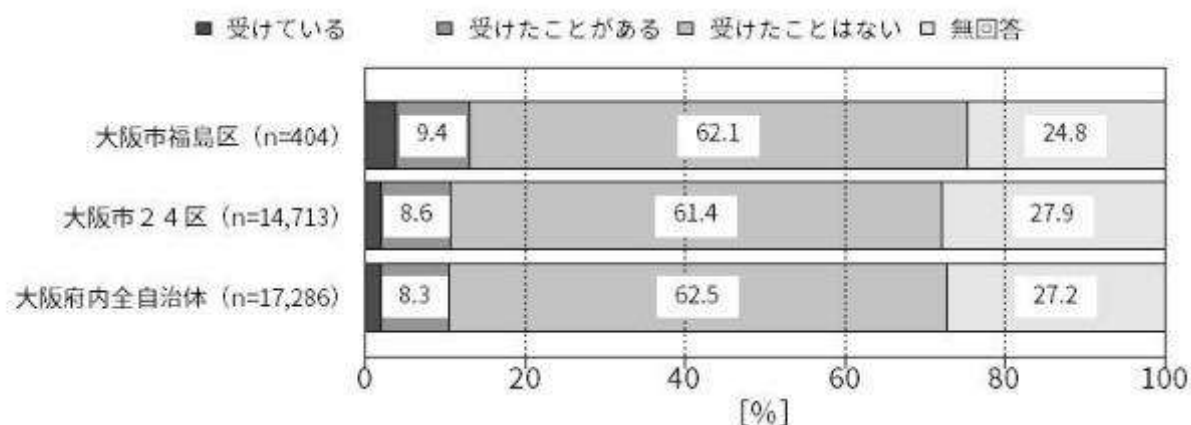


図 19. 親・親族からの仕送り

保護者-8 より、就労状況

表 2. 就労状況別人数

就労状況	人数	%
正規群	280	83.1
自営群	37	11.0
非正規群	16	4.7
無業	1	0.3
その他	3	0.9
合計	337	100.0

なお、分類方法は以下の通り。

父母あるいは主たる生計者に正規が含まれば「正規群」（問 8 選択肢 1）、
 上記以外で、父母あるいは主たる生計者に自営が含まれば「自営群」（問 8 選択肢 4）、
 上記以外で、父母あるいは主たる生計者に非正規が含まれば「非正規群」（問 8 選択肢 2、3）、
 上記以外で、誰も働いていなければ（問 8 選択肢 6、7）無業。
 上記以外がその他 となる。

ここでの無業とは、「ふだん仕事をしていない者、すなわち、ふだん全く仕事をしていない者及び臨時的にしか仕事をしていない者」を指す（就業構造基本調査による）。

クロス集計で「就労状況」を用いる時は、上記区分による。

(2) 生活環境

5 歳児-3-2 世帯員の構成

問3 (2) 世帯員をすべて選んでください。

(お子さんからみた続柄で、あてはまる番号すべてに○をつけてください)

大阪市福島区では、「この調査票を受け取ったお子さん本人」が 100.0%、「お母さん」が 98.3%、「お父さん」が 88.1%、「弟・妹」が 40.6%、「兄・姉」が 39.4%の順に高くなっている。

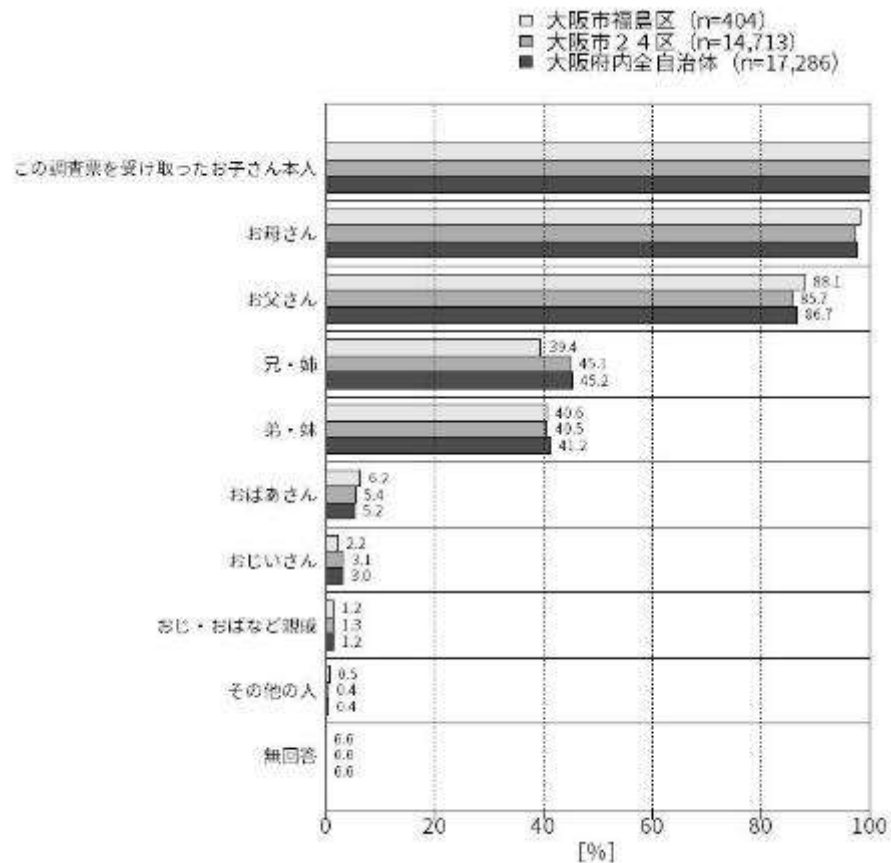


図 20. 世帯員の構成

世帯員の構成 まとめ

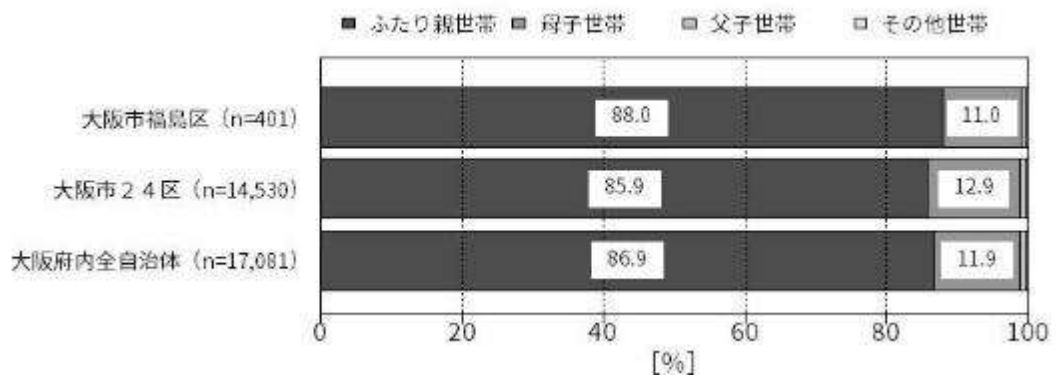


図 21. 世帯構成まとめ